

群馬県前橋市

# 亀里銭面遺跡

—群馬県産業技術センター造成に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

## 序 文

前橋市は、北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる水と緑にあふれた地であります。

前橋は古代より豊かな文化あふれる地であり、東国の奈良と称されています。今から2万8千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の花とうたわれた前橋城、明治からの近代化を示す昭和庁舎など多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内のはば全域に残されています。古代の人々の暮らした家の跡、使った石器や土器などの道具や、水田跡なども多く、毎年の埋蔵文化財発掘調査により多くの新しい発見があります。

本年度群馬県産業技術センター建設に関連して調査を行った龜里鉢面遺跡では、平安時代の水田跡や中世の堀跡など多くの遺構を検出し、地区の歴史解明に貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました市工業課、地元関係者、酷寒・強風のなか調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成13年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 阿部 明雄

## 例　　言

1. 本報告書は、群馬県産業技術センター造成工事に伴う亀里鉄面遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 阿部明雄）が前橋市商工部工業課より受託したもので、再委託を受けた山武考古学研究所が、同調査団の指導のもとに実施した。
3. 遺跡の所在地・調査面積・調査期間並びに担当調査員は次の通りである。

所在地 群馬県前橋市亀里町884番地外  
調査面積 10,525m<sup>2</sup>  
調査期間 平成12年11月21日～平成13年3月16日  
調査員 大越直樹、千葉孝之（山武考古学研究所員）
4. 本書の図表は大越がを行い、第1章を真塙明男（前橋市教育委員会）が執筆し、第2～5章を大越が行った。
5. 調査に際しては下記の諸機関にご協力・ご指導を頂いた。

前橋市教育委員会 動群馬県埋蔵文化財調査事業団 株東日本重機（株）新成田総合社  
開成測量株式会社
6. 遺跡の出土遺物・写真・図面等の資料は、前橋市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 採図中に使用した方位は座標北である。
2. 採図第1図には前橋市役所発行の2千5百分の1現地形図『75』を、第2図には建設省国土地理院発行『前橋』・『高峰』2万5千分の1、第3図には明治21年陸地測量部発行2万分の1地方迅速図『倉賀野郷』を2万5千分の1に縮小して使用した。
3. 本書では次のように表示した。

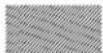
亀里鉄面遺跡—12G48　　土坑—D　　溝—W  
浅間 A 軽石—As-A　　浅間 B 軽石—As-B　　浅間 C 軽石—As-C  
標名ニツ岳伊香保テフラー—FA　　標名ニツ岳渋川テフラー—FP
4. 掲載したスクリントーンは以下を示す。



.....As-B



.....FA



.....地山

# 目 次

## 序文

## 例言・凡例

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 調査の方法と経過	4
第4章 検出された遺構と遺物	9
第5章 まとめ	33

## 抄録

# 挿図目次

第1図 調査区域図	1
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡	2
第3図 遺跡の位置	2
第4図 調査範囲とグリッド設定図	4
第5図 基本土層(1)	5
第6図 基本土層(2)	6
第7図 遺構全体図(1)	7
第8図 14・15・16号溝	10
第9図 36・37号溝	11
第10図 38・39・40号溝	12
第11図 1・2号さく状遺構	13
第12図 3・4号さく状遺構	14
第13図 遺構全体図(2)	15
第14図 平安時代水田跡(1)	18
第15図 平安時代水田跡(2)	19
第16図 1・2号掘立柱建物跡	20
第17図 4・5号掘立柱建物跡	21
第18図 3号掘立柱建物跡、1号井戸	22

第19図	1・2・3・4・5・6・7号土坑	24
第20図	4・5・6号溝	25
第21図	25・26・27・28号溝	26
第22図	出土遺物(1)	27
第23図	出土遺物(2)	28
第24図	条里区画推定図(1)	34
第25図	条里区画推定図(2)	35

## 表 目 次

表1	周辺遺跡	3
表2	出土遺物(1)	28
表3	出土遺物(2)	29
表4	溝(1)	29
表5	溝(2)	30
表6	さく状遺構	30
表7	掘立柱建物跡(1)	31
表8	掘立柱建物跡(2)	31
表9	井戸・土坑	31
表10	平安時代水田跡(1)	31
表11	平安時代水田跡(2)	32

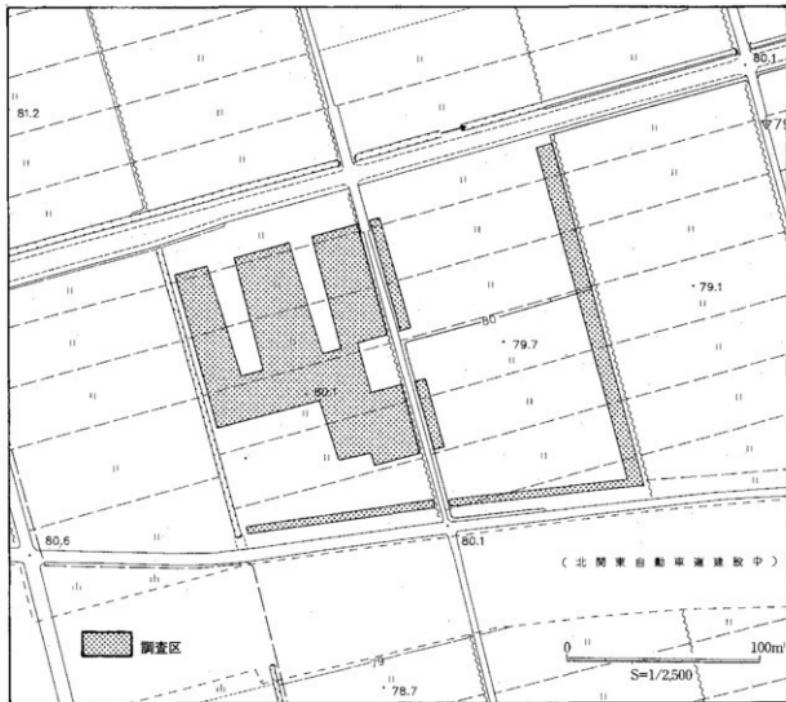
## 図 版 目 次

図版1	亀里錢面遺跡周辺(1)	図版7	2区平安時代水田跡全景、2区平安時代水田跡南東隅、水口、足跡(1)・(2)
	亀里錢面遺跡周辺(2)	図版8	1号掘立柱建物跡、4・5・6号溝
図版2	1区遠望、1区全景	図版9	25号溝、2・3・4・5号掘立柱建物跡
図版3	2区遠望、2区古墳・平安時代面全景	図版10	1号井戸、1・2・3・4・5・6・7号土坑
図版4	14・16・36・37号溝	図版11	出土遺物
図版5	38・39・40号溝、1・2・3・4号さく状遺構		
図版6	1区平安時代水田跡(1)・(2)・(3)		

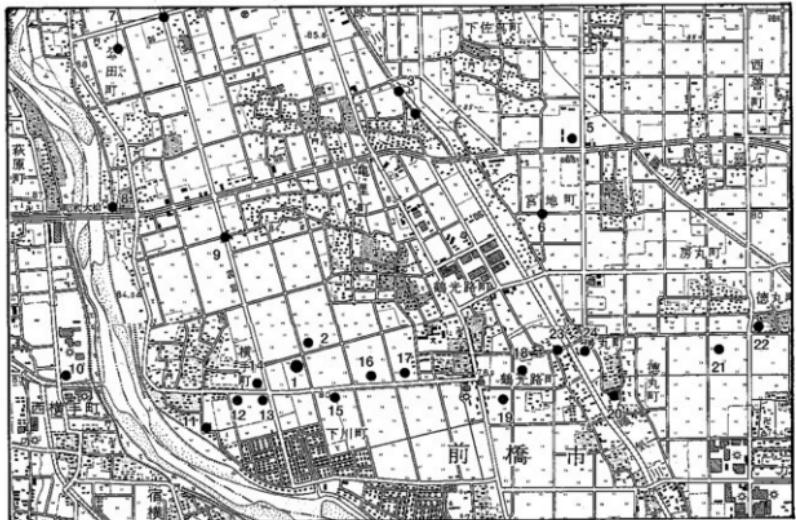
## 第1章 調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査は、群馬県産業技術センター造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成12年11月から平成13年3月にかけて行われた。

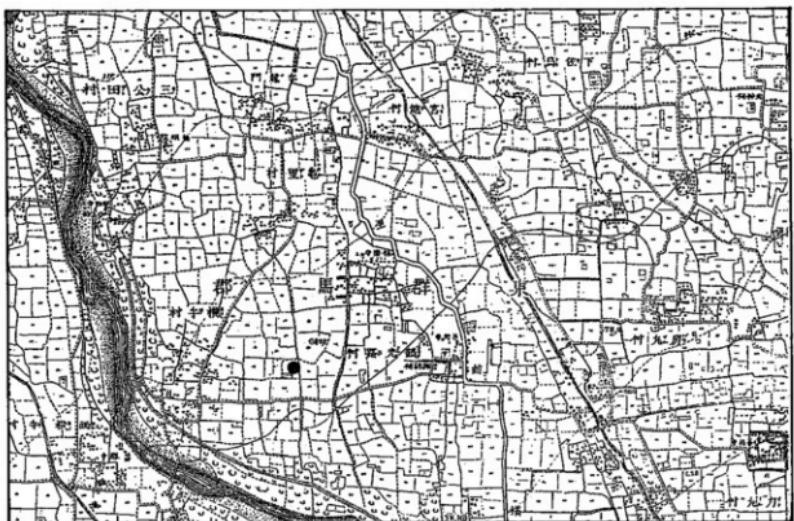
平成12年10月6日付けで前橋市長 萩原 弥惣治（前橋市商工部工業課）より前橋市教育委員会に群馬県産業技術センター用地の建設造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が提出された。これを受け平成12年11月15日に前橋市長と前橋市教育委員会で組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団との間で委託契約を締結した。同年11月21日に当調査団と山武考古学研究所との間で発掘調査・整理作業の実務についての再委託契約を締結し、現地での発掘調査を開始した。遺跡名称は『亀里銭面遺跡』とし、遺跡略称は『I2G48』とした。なお、『亀里』は現在の町名を『銭面』は旧地籍の小字名を使用している。



第1図 調査区域図



第2図 遺跡の位置と周辺遺跡



● 遺跡の位置

第3図 遺跡の位置

## 第2章 遺跡の位置と環境

亀里鉄面遺跡は、群馬県前橋市亀里町884番地外に所在し、JR 前橋駅より南に約5.4km、利根川左岸の前橋台地上に位置する。関越自動車道が高崎から分岐する北関東自動車道の北側にあたる。周辺地区では縄文時代から近世にいたる遺跡の所在が確認されている。

縄文時代では、徳丸仲田遺跡(21)から草創期の土器・石器、横手早畠田遺跡(10)からは中期の土坑、横手湯田V遺跡(14)から後期の土器が出土している。

弥生時代では、現利根川の自然堤防上に築かれた櫛島川端遺跡から後期集落跡が確認されている。

古墳時代には、火山噴火によるテフラ As-C(浅間山)、FA および FP(榛名山) 降下により水田を覆われる災害に見舞われている。方形周溝墓が公田東遺跡(7)・徳丸仲田遺跡で造営され、水田跡が、西横手遺跡群(9)や横手湯田遺跡(15)で確認されている。

奈良・平安時代には、条里制に基づく水田開発が進む。条里的な区割りは平安末期にも続くが、浅間山の噴火(1,108年)によるテフラ (As-B) で埋没した。群馬県内では該期の水田跡が数多く確認されており、本遺跡の北側に隣接する亀里鉄面II遺跡(2)でも検出されている。

近世では、1783年(天明3年)に浅間山が噴火し、テフラ (As-A) が降下した。被災後の耕地復旧は、テフラを除去し坑に埋めた。その痕跡は亀里鉄面II遺跡でも検出されている。

中世城館については、群馬県教育委員会が1998年にまとめた『群馬県中世城館跡』で詳細が記され、図・表で記した以外にも多くの城館が所在し、主として自然堤防・微高地に築かれている。

表1 周辺遺跡

No.	遺跡名	縄文時代	弥生時代	古墳時代				奈良・平安時代			中・近世			備考	
				集落	水田			その他	集落	水田	その他	城館	その他		
					As-C	FA	FP								
1	亀里鉄面遺跡	遺物出土							○		?				
2	亀里鉄面II遺跡	遺物出土							○						
3	猪俣内城内遺跡										○				
4	川垂遺跡		○												
5	東田遺跡		○												
6	宮地中田遺跡								○						
7	公田東遺跡		○	C 桧				C 鹿島・方那 周溝墓	○	○	○	○	集落		
8	浅間神社古墳							古墳							
9	西横手遺跡群		○	C 下・C 桧		○							墓場		
10	横手早畠田遺跡		○		○	○	○	旧河道	○	土坑・春		水田	倒形石板品		
11	横手井戸南遺跡		○		○	○	○	土坑・溝	○	○	○	水田・墓			
12	亀里平塚遺跡				○				○		○		水田		
13	横手官田遺跡							FP 桧	○						
14	横手湯田V遺跡	遺物出土			○	○			○			水田			
15	横手湯田遺跡		○	○	○	○	○	As-C 下溝	○	土坑	○	水田他			
16	横手湯田Ⅲ遺跡	遺物出土			○				○			土坑・溝			
17	越光跡引遺跡								○	土坑・溝					
18	西田日遺跡							溝	○	○		井戸・溝			
19	西田遺跡		○	○					○	○		基・溝			
20	徳丸高塙遺跡	包含層									○				
21	徳丸仲田遺跡	包含層	○	C 桧	○			方形周溝墓	○	○	○	基・井戸	○		
22	徳丸仲田E遺跡		○					土坑・溝	○	○	○	基・溝	隆起面文土器		
23	徳丸路横橋D遺跡								○						
24	徳丸高塙昌遺跡								○			土坑・溝			

## 第3章 調査の方法と経過

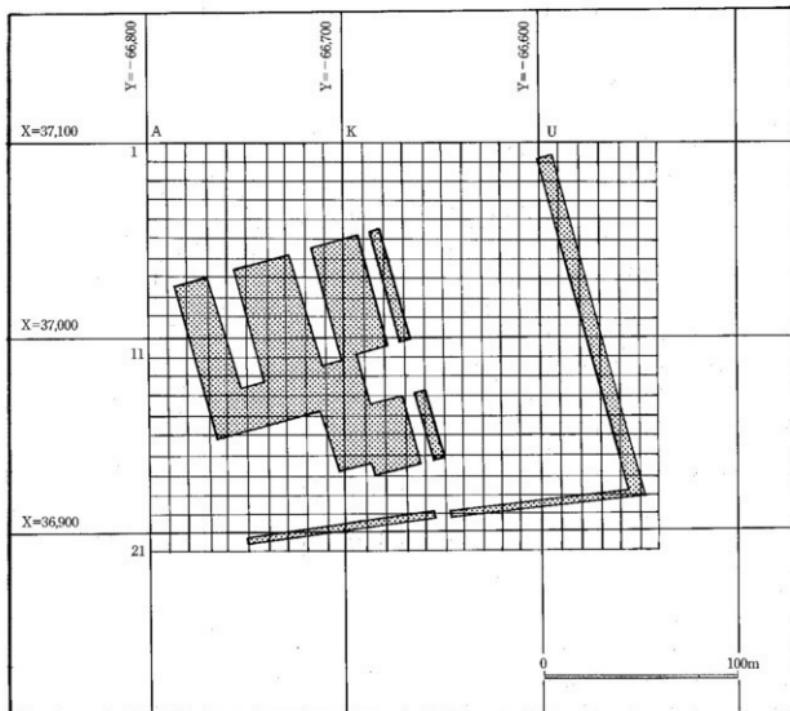
### 第1節 調査方法

調査は、作業の進行上1区と2区とに調査区を分けて実施した。

調査区内に $10 \times 10\text{m}$ の方眼網を被せ、これを基準とすることにした。方眼網の基点は、国家公共座標第IX系 $X=37,100$ ,  $Y=-66,800$ とし、東に向かってアルファベット大文字をAから、南に向かってアラビア数字を1から付していくことにした。

図面の縮尺は $1/20$ ,  $1/40$ ,  $1/100$ を基本とした。

写真撮影は、 $35\text{mm}$ （白黒・カラーリバーサル）を使用し、遺跡の全体写真は航空撮影で行った。遺物の取り扱いについては、すべて水洗い・注記を行い、報告書に掲載する遺物に関しては、図化することにした。



第4図 調査範囲とグリッド設定図 ( $S=1/2,500$ )

## 第2節 調査の経過

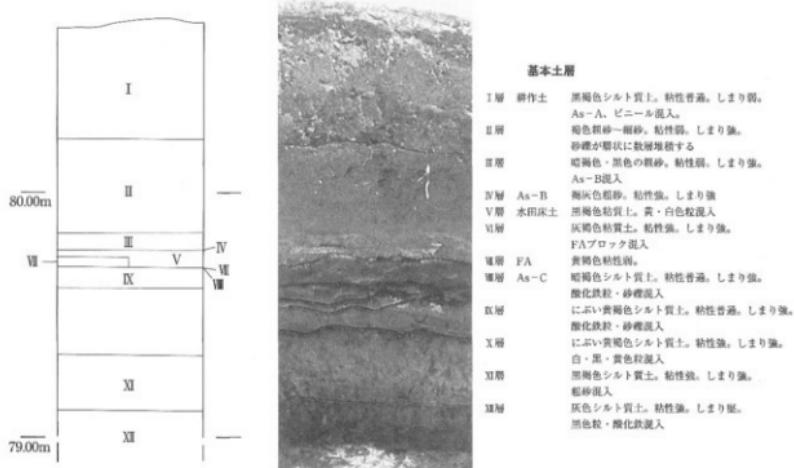
(平成12年11月21日～平成13年3月16日)

- 11月下旬 現況写真撮影、調査範囲設定を行い調査を開始する。重機により表土除去作業を行う。  
1区の表土除去作業を終了し、人力で掘り下げ作業を行い、平安時代～近世にかけての水田跡、掘立柱建物跡などを調査する。
- 12月 全測図作製・航空撮影を行う。ブロック状になったFAの上面まで重機で掘削したが、同層の堆積が希薄であるため、As-C混土層までさらに掘り下げた。

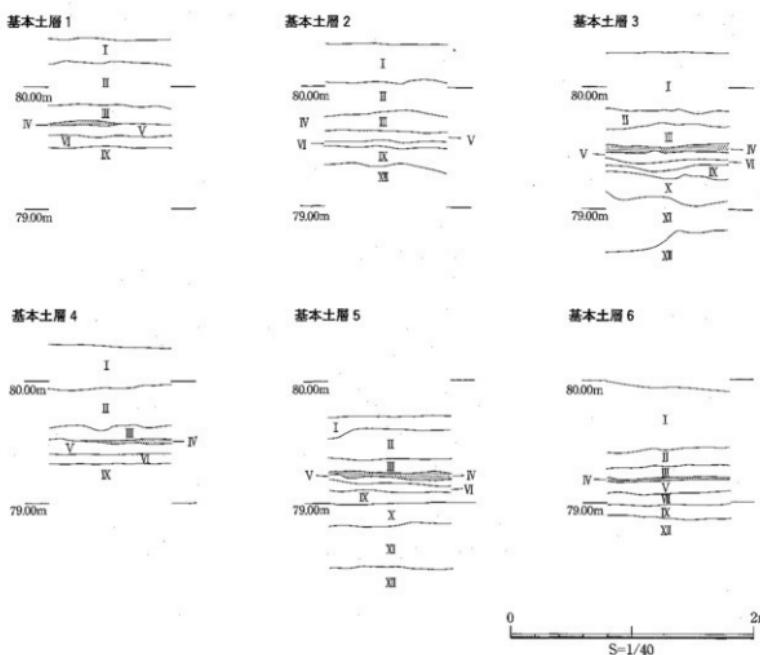
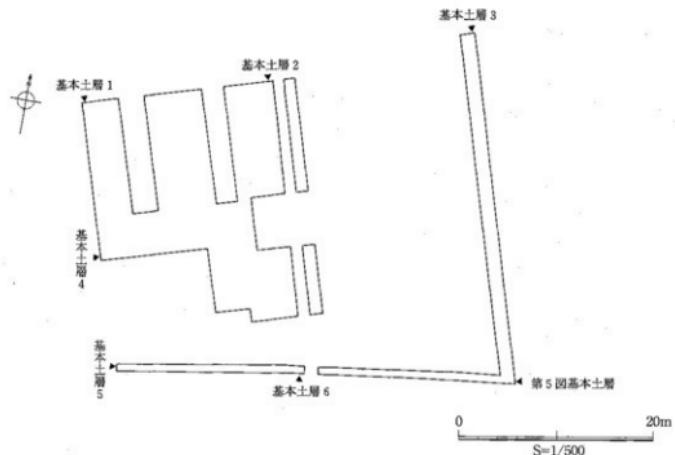
- 1月 1区、古墳時代の溝検出面まで重機で掘削する。各遺構の調査を行い、全測図作製・空撮後、終了確認を行い同区の調査を終了する。  
2区の調査を開始する。重機による表土除去・人力による遺構調査など1区同様の手順で作業を進める。
- 2月～3月 2区の中世掘立柱建物跡・平安後期水田跡、古墳時代溝などを調査する。終了確認を行い、現地における調査を終了する。

## 第3節 基本土層

当初、遺構の検出を予想した3つの鍵層は、IV層(As-B)、VII層(FA)、VI層(As-Cを混入する土層)で、そのうち遺構を確認したのは、IV層とVII層であった。IV層上面には中世遺構の掘り込みが、下面には埋没した平安時代水田跡が検出された。またVII層は遺跡全体に薄く3cm前後で広がり堆積し、上面から6世紀代のFA埋没溝が検出された。詳細は第5・6図で示す。



第5図 基本土層(1)



第 6 図 基本土層 (2)



第7図 遺構全体図(1)

## 第4章 検出された遺構と遺物

調査では遺構確認面2面を検出した。As-C混土層下面とAs-B下面である。前者からは主にさく状遺構が、後者からは水田跡が検出された。この他、古墳時代から近世に至る掘立柱建物跡5棟、井戸1基、土坑7基、溝32条が確認された。遺物は、縄文時代の石器・土器のほかに、古墳時代前期から近世までの遺物が整理箱1箱分出土している。

### 第1節 古墳時代

溝（遺構：第7・8・9・10図、表4・5、図版4・5／遺物：第22図、表2、図版11）

14~16・36~40号の8条の溝が検出された。1区には14~16号溝が、2区には36~40号溝がある。各溝の直上面の大半はVI層（灰褐色）で覆われている。遺構の掘り込みは38号はIX層から、これ以外はAs-Cを混入しIX層の上に3cm前後堆積するVII層で確認された。断面形状はやや凸凹のある鍋底形・皿形が多い。

上幅は0.20m未溝が36号溝、0.50以上1m未溝が14・16・38・39・40号溝、1m以上が15・37号溝である。深さでは0.20m未溝が14・36・38・39号溝、0.20~0.30m未溝が15・16・37・40号溝である。

走向は、N-7°-Eが36号溝、N-20°-W以上N-30°-W未溝が14・15号溝、N-30°-W以上N-40°-W未溝が37・38・39号溝、N-46°-Wが16号溝、湾曲するものが40号溝である。流水方向を10m以上の距離がある溝底部で計測したところ、北から南に向かうものが36・37号溝、東から西に向かうものが38号溝、北西から南東に向かうものが39・40号溝であった。

埋没土は、As-Cが少量混入するのが14・38号溝、それ以外の溝ではFAが大量に混入していた。

出土した遺物はいずれも土師器小片である。甕片は37号溝6点、40号溝5点、壺片は40号溝1点である。掲載した遺物は37・40号溝の土師器甕・壺片1・2・4である。

### 第2節 奈良・平安時代

(1) さく状遺構（遺構：第7・11・12図、表6、図版5／遺物：第22図、表2、図版11）

さく状遺構は、畜のさく（小溝）に似ているために命名した。明瞭な耕地区画や畠山はない。1・2・3・4号さくがあり2区のⅦ層（As-C混土層）上面で確認した。残存する部分から判断して全体の平面形状は、短い小溝（さく）を横に連ねていき、キャタピラ痕のような形状で面的な構成をしていたと推定される。遺構の底面には起伏があり、埋没土はVI層（灰褐色土）に類似する。

1号さくは2区西側北寄りのD10に位置し、小溝が広がる範囲は $27.61m^2$ で長軸がN-79°-Wである。

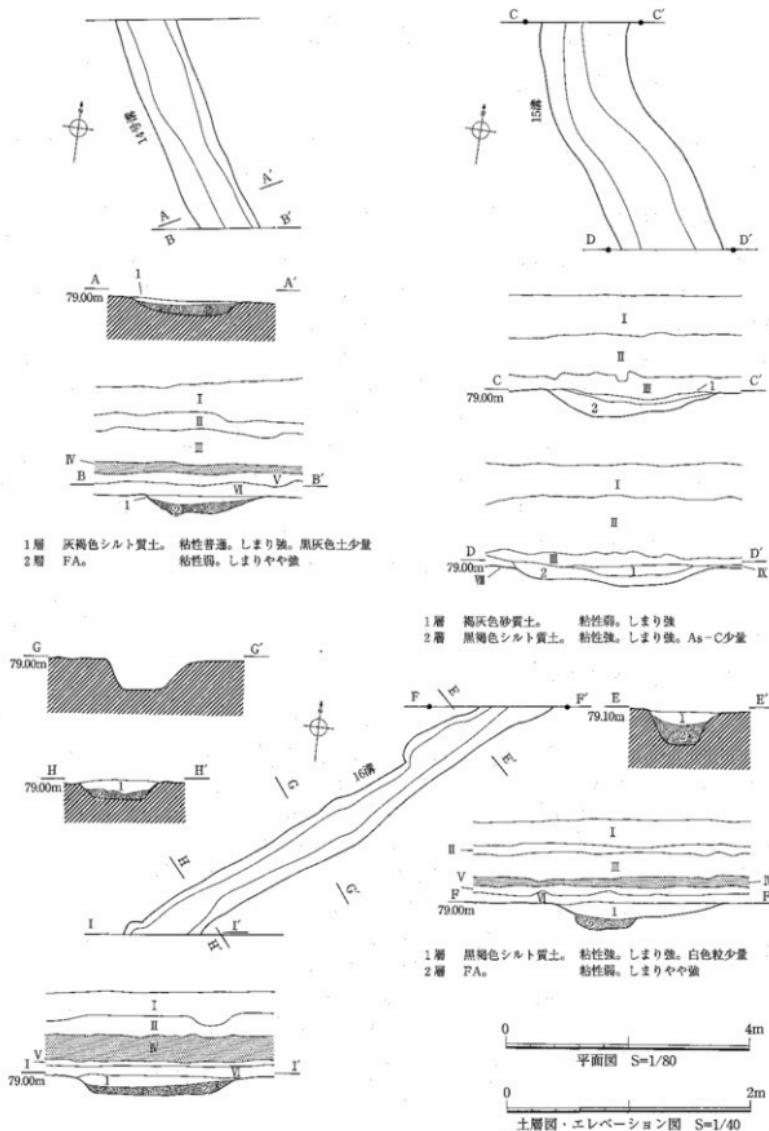
2号さくは2区西側南寄りG12に位置し、小溝が広がる範囲は $12.88m^2$ と最小で長軸がN-66°-Eである。

3号さくは2区中央部南寄りG13に位置し、小溝が広がる範囲は $196.84m^2$ と最大で長軸がN-90°である。

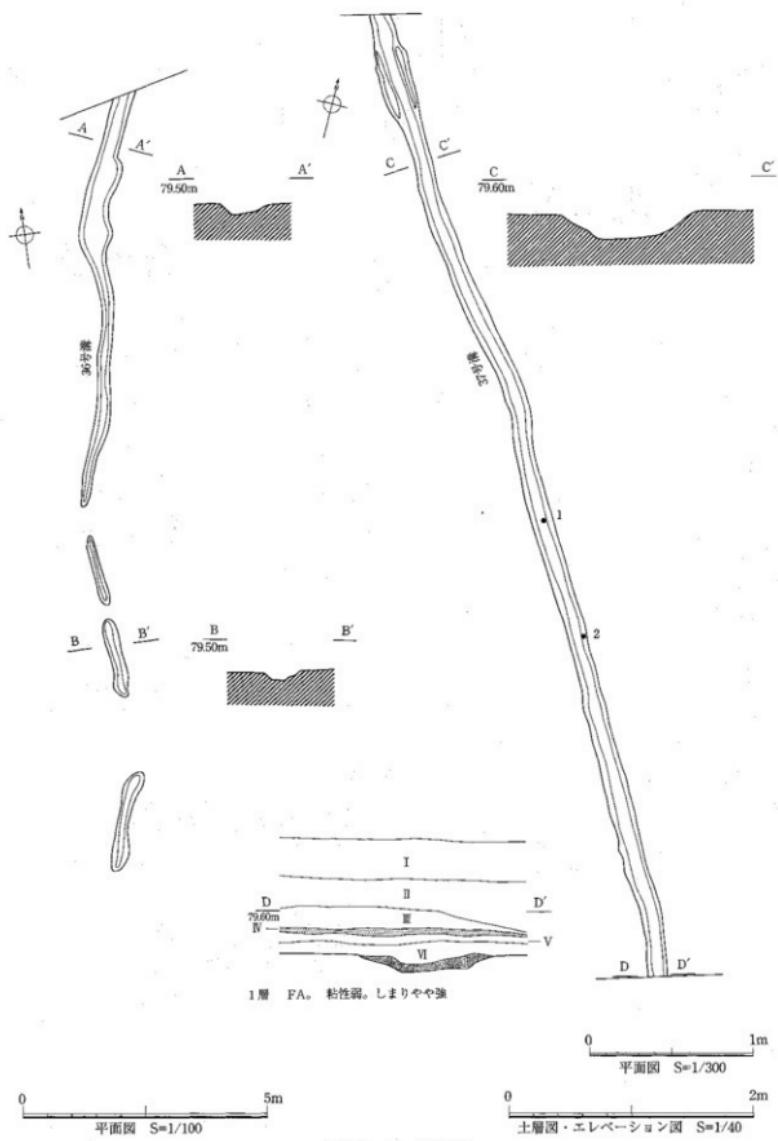
4号さくは2区中央部南寄りK12に位置し、小溝が広がる範囲は $18.19m^2$ で長軸がN-87°-Eである。

長軸の方向は1・2号さくに連続性はないが3・4号さくは東西線上に並ぶ特徴がある。

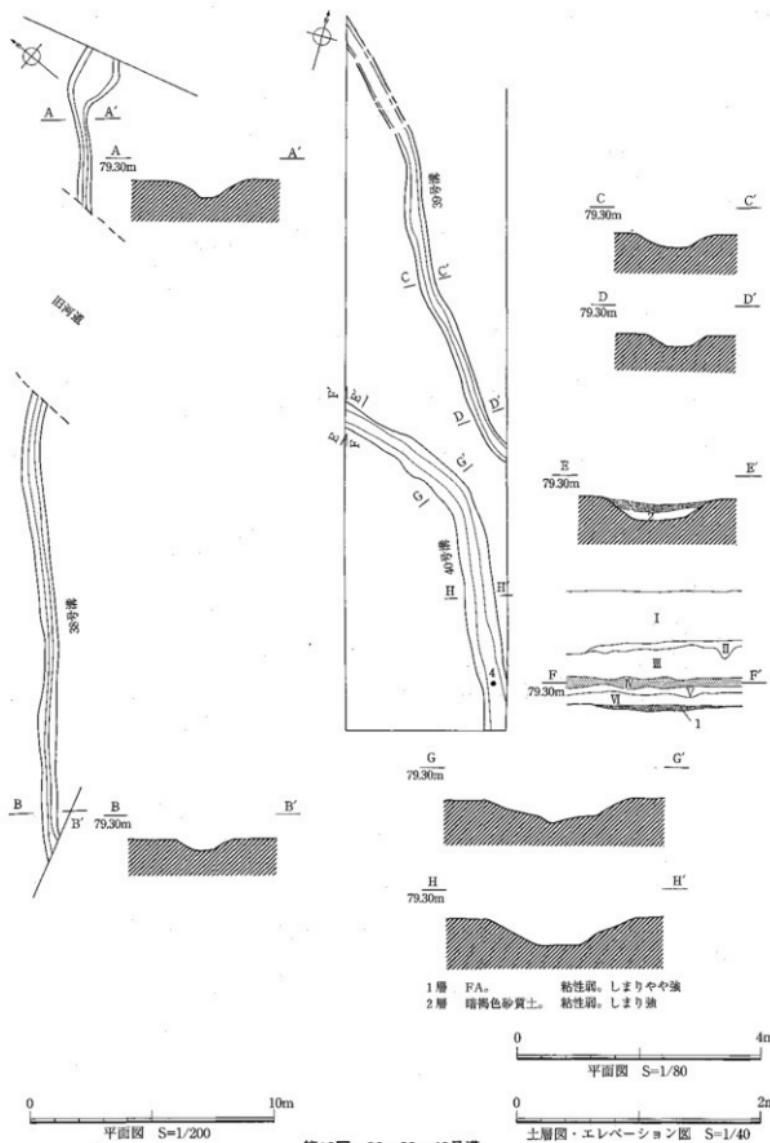
遺物はすべて小片で、須恵器片が1号さくから1点、土師器片が1号さくから7点、3号さくから2点、掲載遺物は1号さく出土の回転糸切り底の須恵器壺6である。



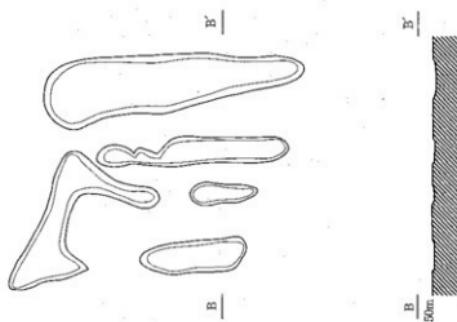
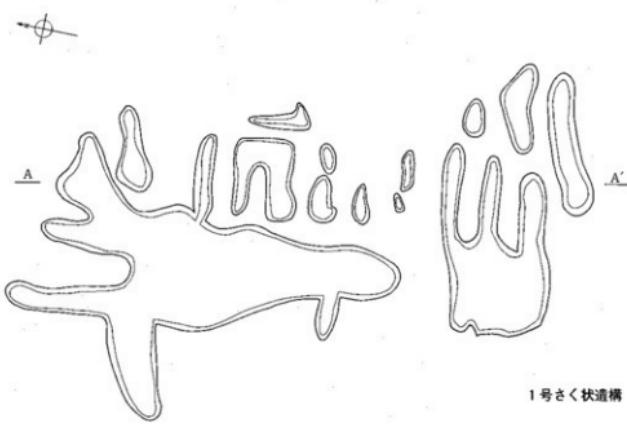
第8図 14・15・16号溝



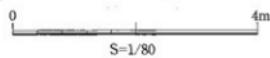
第9図 36・37号溝



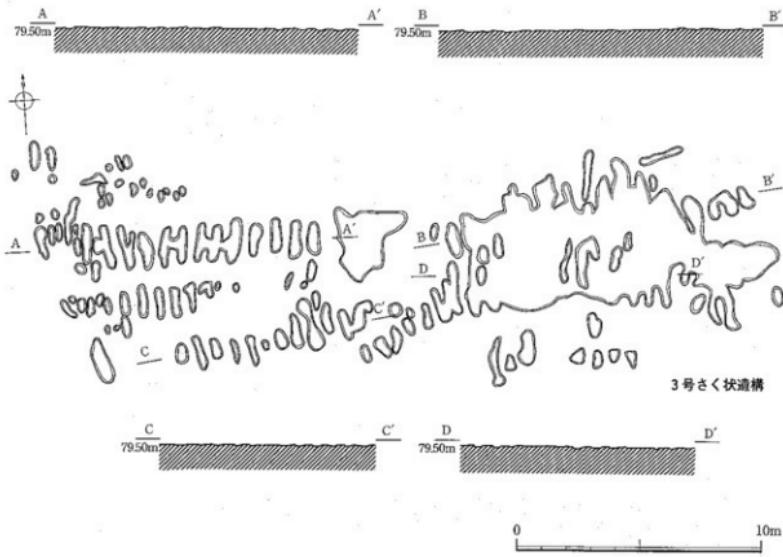
第10図 38・39・40号溝



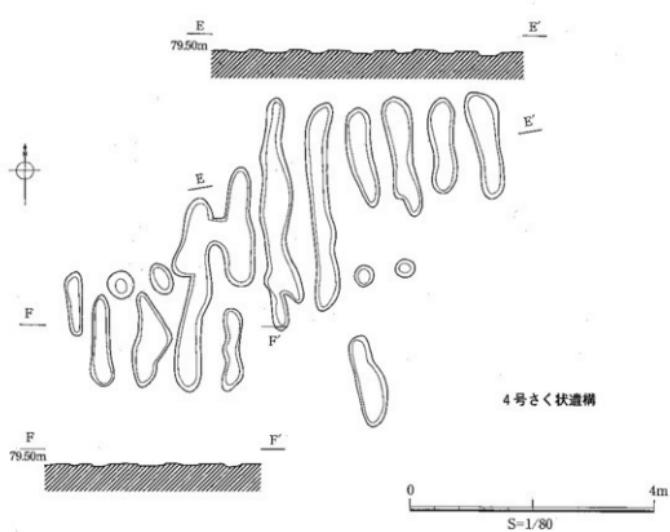
2号さく状构造



第11図 1・2号さく状构造

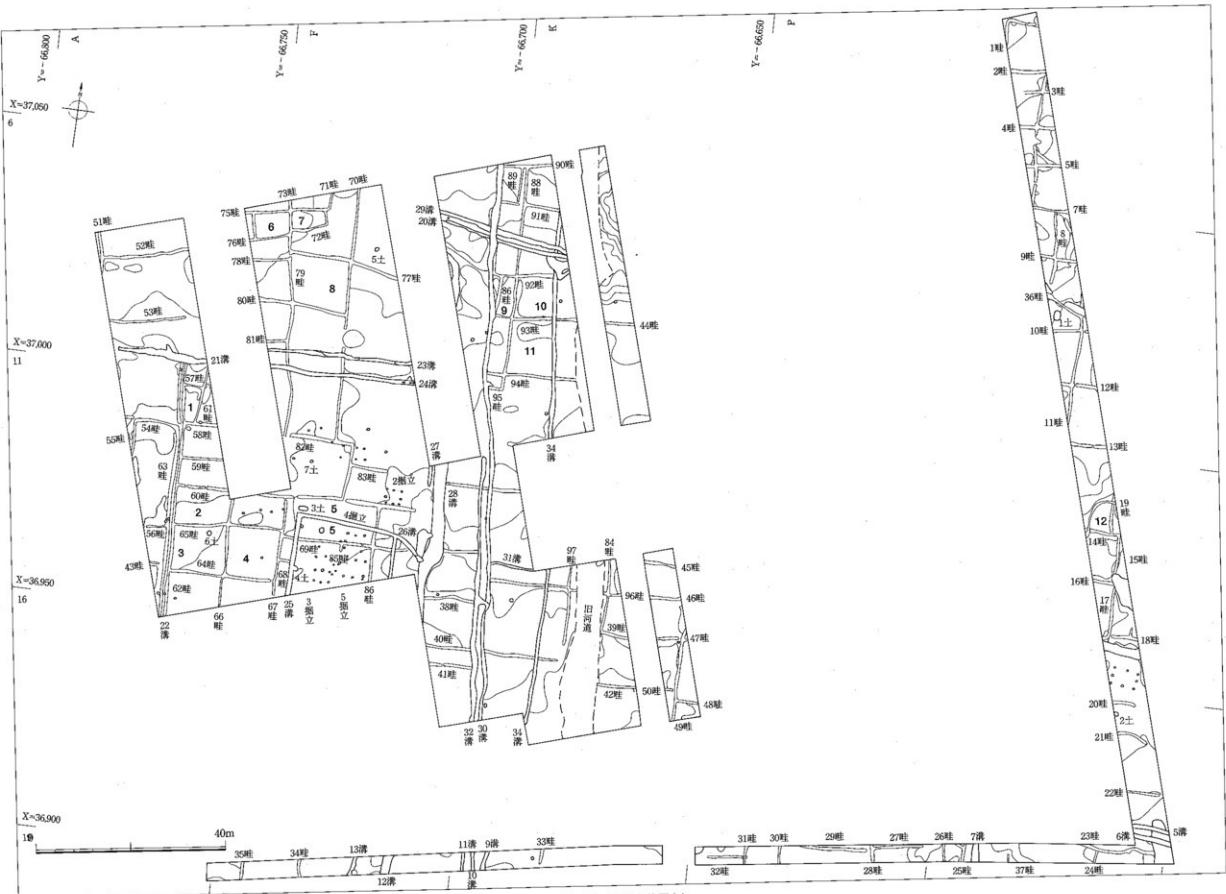


3号さく状造構



4号さく状造構

第12図 3・4号さく状造構



第13図 遺構全体図(2)

(2) 平安時代後期水田跡（遺構：第13・14・15図、表10・11、図版6・7）

水田面はIV層（As-B 軽石）を除去したV層（黒褐色土）上面で検出された。水田跡は遺跡全体を覆っている。標高は2区北西角付近で79.67m、1区南東角付近で78.86mあり、比高差は0.81mである。

畦畔に区画された水田面の面積は、明確に判るものが12面あり、 $20.78\text{m}^2 \sim 159.30\text{m}^2$ までの大きさがある。そのうち $80.53\text{m}^2 \sim 159.30\text{m}^2$ の水田は2・3・4・5・8で遺跡西側の2区西半にまとまり、 $20.78\text{m}^2$ から $68.95\text{m}^2$ の水田は1・6・7・9・10・11・12で遺跡東側の1区から2区東半に偏る傾向がある。

畦畔は97条検出された。北を向く畦畔は、N-0°を中心に東西に12°以内の傾きをもっている。

大畦畔と推定されるのは、22号溝を挟んだ62・63号畦畔で、ともにN-0°の方向を指している。

水田に伴う溝は、22・31号溝の2条である。上幅は0.55から0.58mで、深さは0.10m前後である。また方向は22号溝が南北を示し、31号溝が東西を示している。流水方向は不明である。22号溝は畦畔構築のために掘削してできた窪みと推定される。

水口は1区で7個所、2区で13個所が確認された。

2区南東角付近では遺存の良い足跡が確認された。人のものと馬かと思われる動物のものとがある。後者は平面形がほぼ円形で南北に向かっている。埋没土はIV層（As-B）である。

なお1区南東角付近の水田面上にみられる径15cmほどの凹の中には、上記足跡のほかにⅢ層（暗褐色・黒色砂）に類似した埋没土を大量に混入したものがある。As-Bを掘り込んだ中世鉄先痕の可能性もあるが、形状は明確でなく断定できない。

遺物は土師器片が58点、須恵器片が11点あり、水田跡全体に点在していた。すべて小片であるため該期に伴うか否かは不明である。

### 第3節 中・近世

#### 第IV層（As-B）上面から、掘立柱建物跡5棟、井戸1基、土坑7基、溝22条が検出されている。

遺跡内には住居域の可能性がある地点が2個所ある。第1は1号掘立と4・6号溝のある1区東側南寄り付近、第2は2・3・4・5号掘立と25・26・28号溝のある2区中央部南寄り付近である。25号溝は、濠と思われ、方形区画となるようである。

1号井戸と3・4号土坑は、埋没土から、掘立柱建物跡群よりも新しい時期の遺構と推定される。

(1) 掘立柱建物跡（遺構：第13・16・17・18図、表7・8、図版8・9）

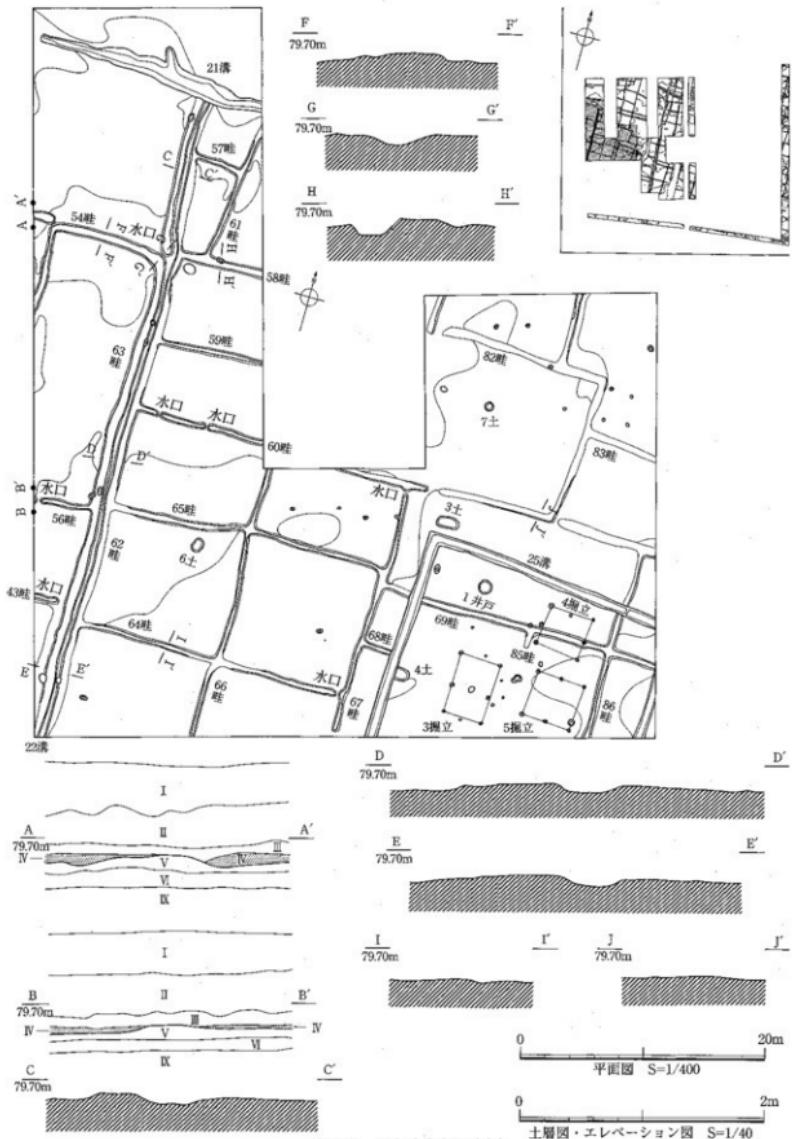
1・2・3・4・5号の5棟があり、1区の1号掘立以外の4棟は、2区の方形区画された25号溝の内外で検出された。

平面形状は、長方形が1・3号、ほぼ正方形が2・4・5号である。長軸×短軸で、 $2 \times 2$ 間が1号、不整形だが $2 \times 2$ 間と推定されるのが2号、不整形だが $2 \times 1$ 間と推定されるのが3・5号、 $1 \times 2$ 間が4号である。

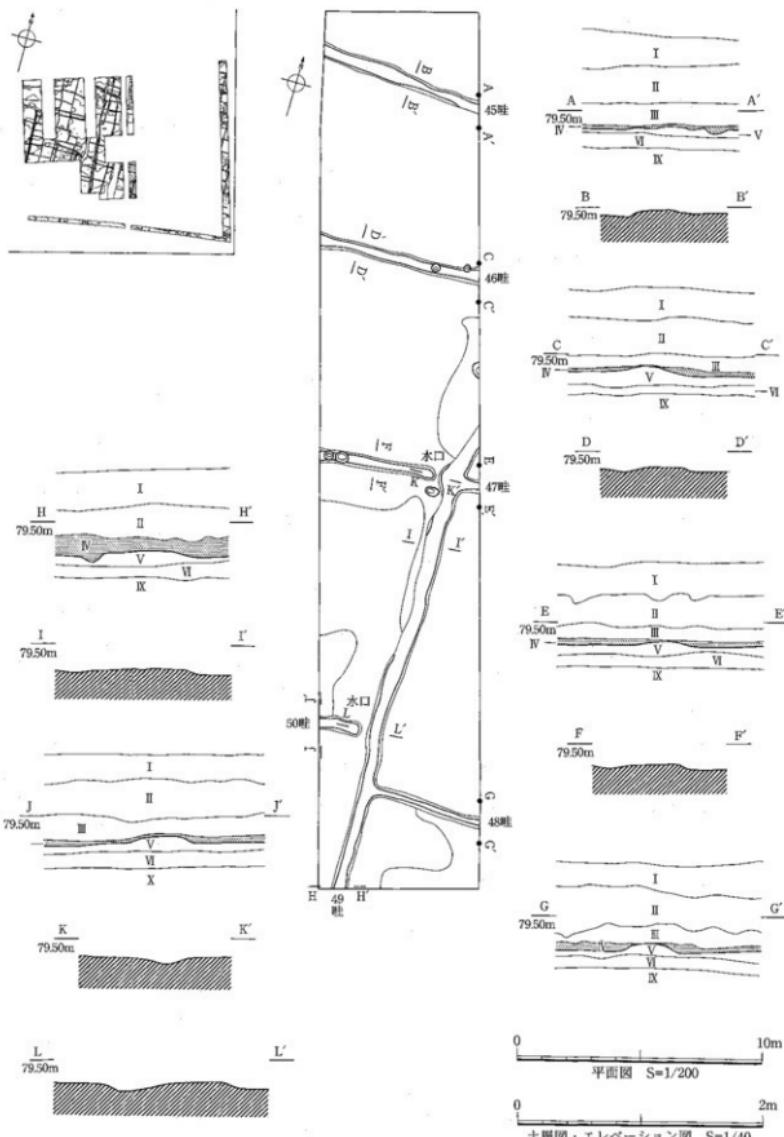
各柱穴の配置、個別にみた柱穴の径や深さは1・5号を除くと不揃いである。

埋没土は、1号および2・3・4・5号は掘り込まれた面は異なるものの、埋没土はⅢ層に類似した暗褐色の砂であった。

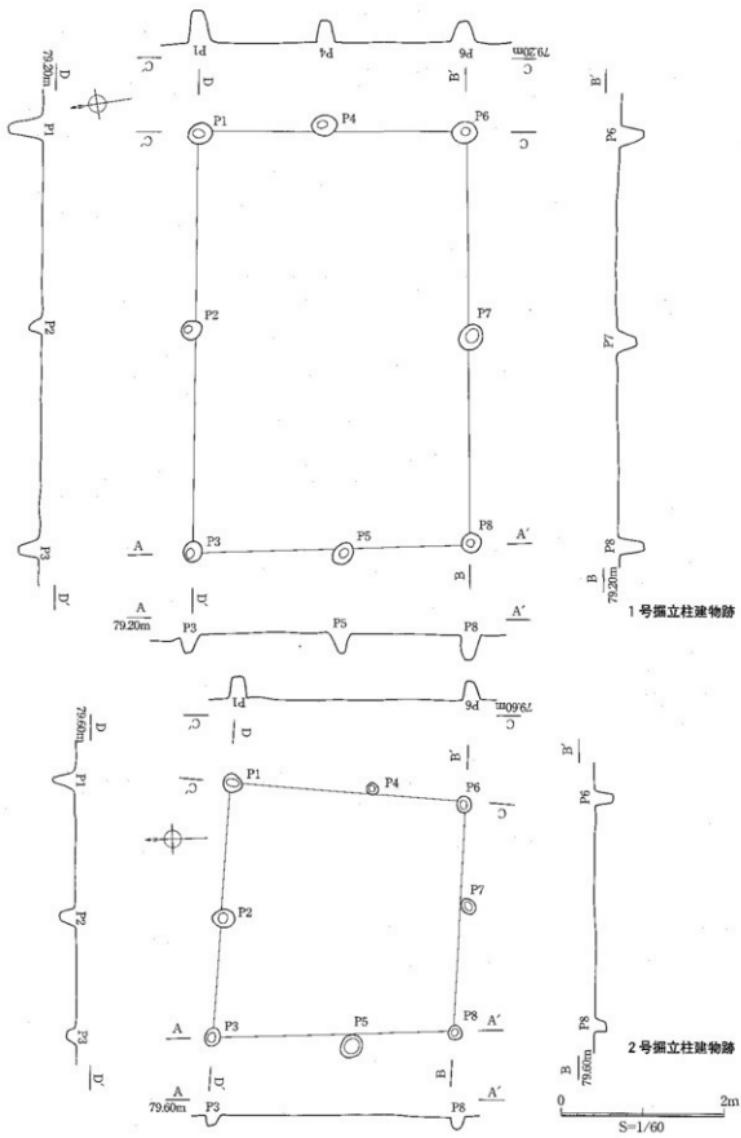
遺物はいずれの柱穴からも出土しなかった。



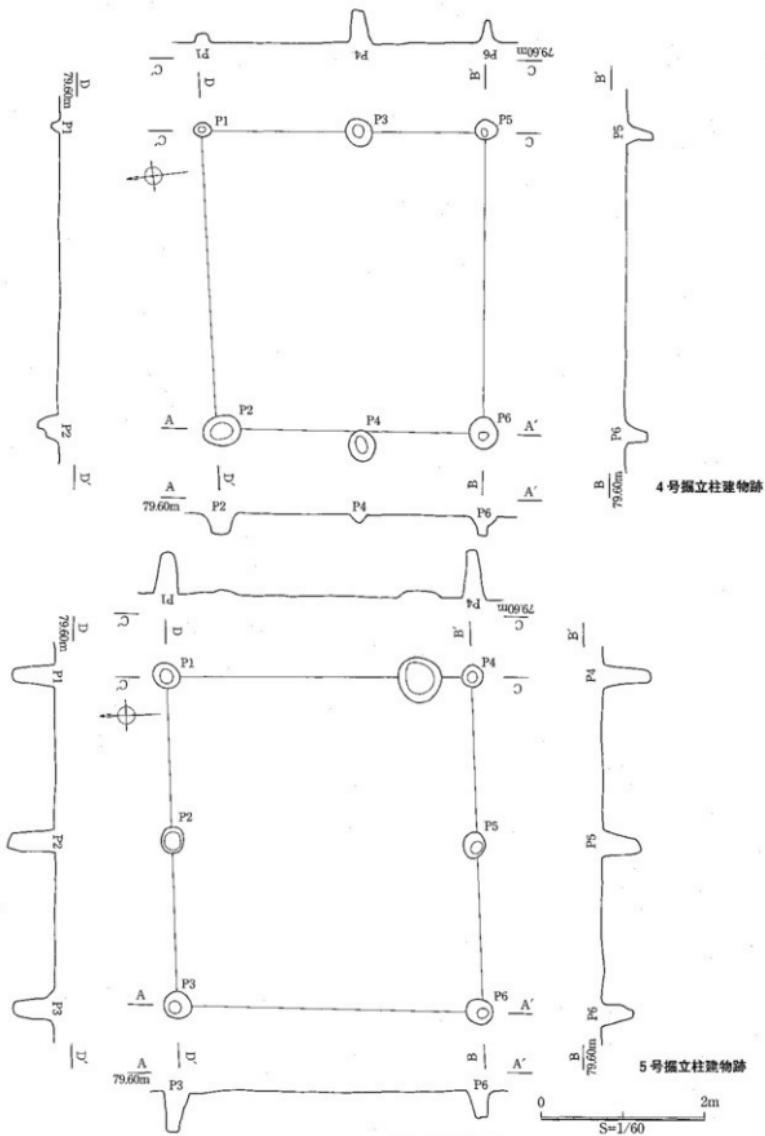
第14図 平安時代水田跡(1)



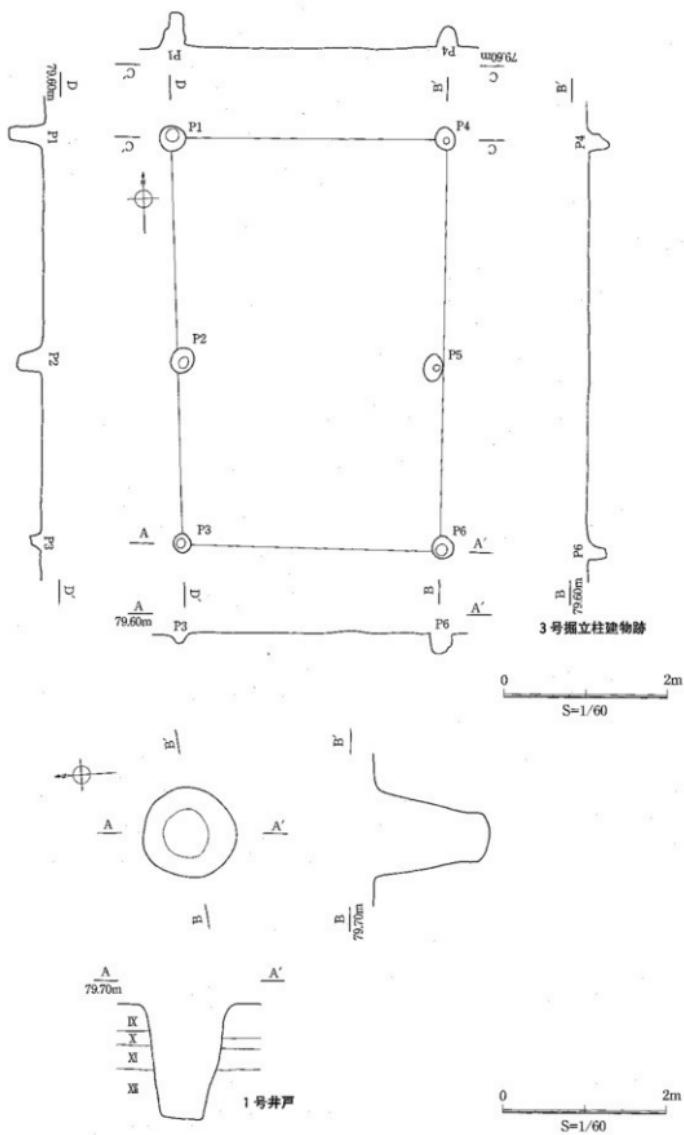
第15図 平安時代水田跡(2)



第16図 1・2号掘立柱建物跡



第17図 4・5号掘立柱建物跡



第18図 3号掘立柱建物跡、1号井戸

(2) 井戸(遺構：第13・18図、表9、図版10)

1号井戸は、25号溝内部の北西角付近2区G14に位置し、IV層(As-B)上面で確認された。平面形状は円形で、断面形状は底部から直上に立ち上がり上部で開く。径1.14m、深さ1.42m。湧水層はXII層に達している。埋没土は褐色砂層でⅡ層に類似している。遺物は底面に径約30cmの川原石が1点あった。

(3) 土坑(遺構：第13・19図、表9、図版10)

1・2・3・4・5・6・7号土坑の7基が検出された。1・2号土坑は1区に、3～7号土坑は2区に位置する。平面形状は1号土坑が隅丸長方形、2・7号土坑が円形、3・4・5・6号土坑が長方形である。規模は長径0.38m～2.10m、深さ0.15m～0.42m。5・7号土坑の底部の凹凸は著しい。1・2・5・6・7号土坑はⅢ層(暗褐色・黒色粗砂)に、3・4号土坑は覆土がⅡ層(褐色砂)に類似している。いずれからも遺物が出土していない。

(4) 溝(遺構：第13・20・21図、表4・5、図版8・9／遺物：第22・23図、表3、図版11)

検出された溝のうち該期に相当するのは、3～7号溝、9～13号溝、20・21号溝、23～30号溝、32・34号溝の22条である。13号溝までは1区に、以下は2区に位置する。

断面形状が逆台形もしくはやや崩れた逆台形であるものは、3・4・5・25・26号溝である。

規模は、上幅0.50m未溝のものが、11・13・20・32号溝、上幅0.50以上1m未溝のものが、3・5・6・7・9・10・21・23・24・25・26・27・30・34号溝、上幅1m以上のものが、4・12・28・29号溝である。深さは0.20m未溝のものが、9・10・23・27・29・30・32・34号溝、0.20～0.40m未溝のものが3・5・13・21・24・26・28号溝、0.40～0.70mのものが、4・6・7・11・12・20・25号溝である。

走向は方形区画された25号溝は南北N-0°、東西N-83°である。以下は次の通りである。N-0°を中心に東西の傾きが15°以内のものが7・10・11・12・27・28・30・32・34号溝である。N-90°を中心に南北の傾きが15°以内のものが3・4・5・6・20・21・23・24・29号溝、ほかが9・13・26号溝である。

流水は、10m以上のものを底部の標高から測定したところ、北から南に向かうものが28・30・32・34号溝、西から東に向かうものが23・24・29号溝で、不明3・4・25号溝となった。

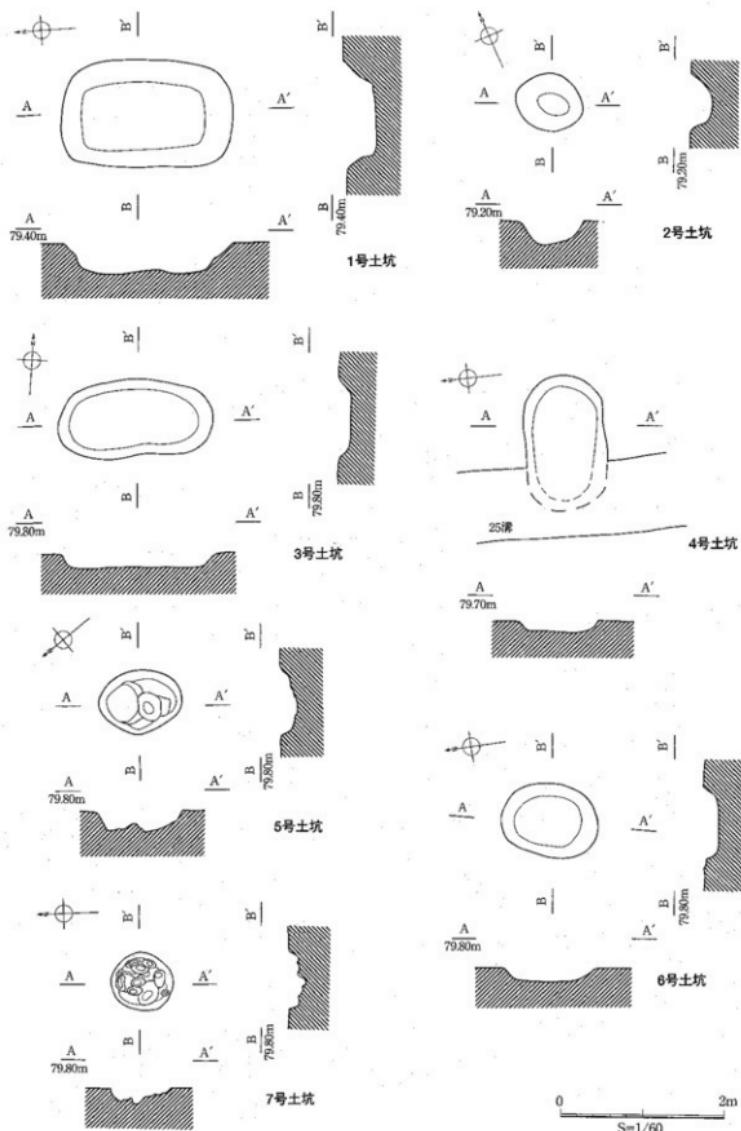
埋没土は、Ⅱ層に類似したものが、3・5・13・20・21・27号溝、Ⅲ層に類似したものが、4・6・7・8・9・10・11・12・23・24・25・26・30・32・34号溝、それ以外が28・29号溝である。

中世の遺物を伴う溝は4号溝、近世の遺物を伴う溝は21・29・34号溝である。掲載した遺物は、4号溝の軟質陶器片すり鉢9、杭1、29号溝の鉄軸陶器鉢10、34号溝青磁片11、軟質陶器内耳壺8である。また30号溝から出土した土師器壺3は混入と思われる。

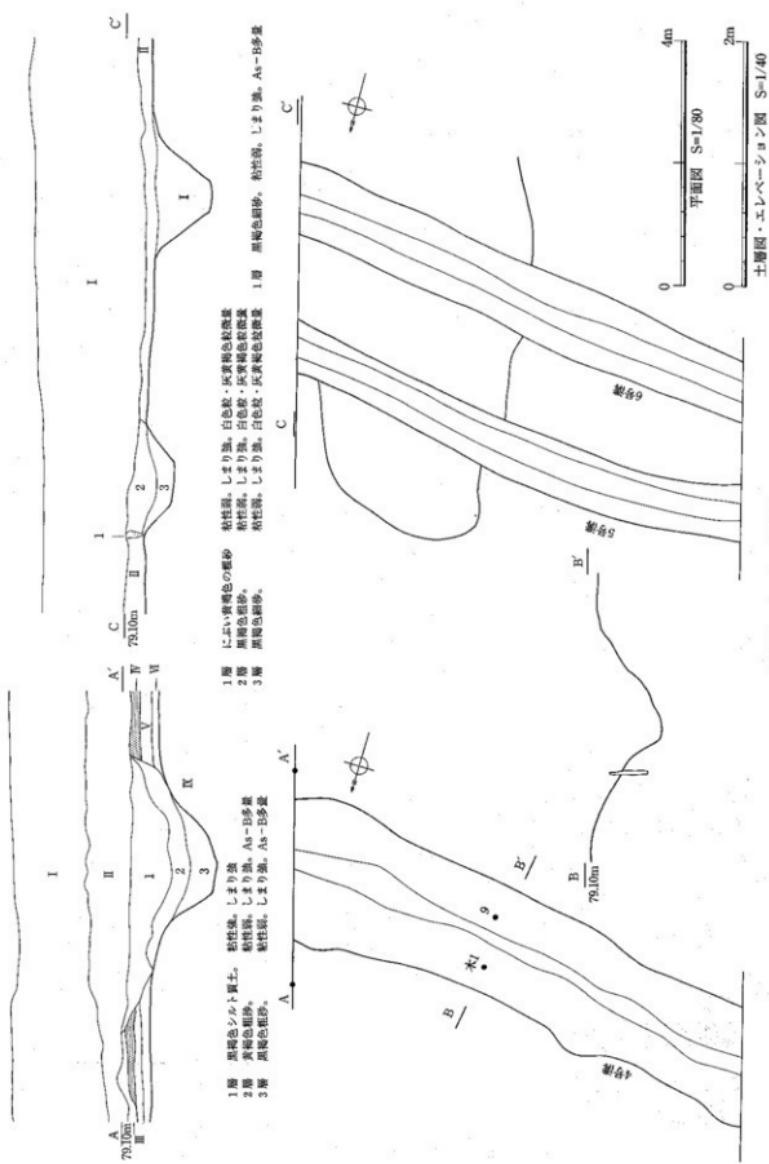
以上のことから各溝は、東西と南北の走向が明確であり、条里の区画を意識していたことがうかがえ、4・6号溝及び25号溝など城館の可能性がある区画も概ねこれに倣っていたと推定される。

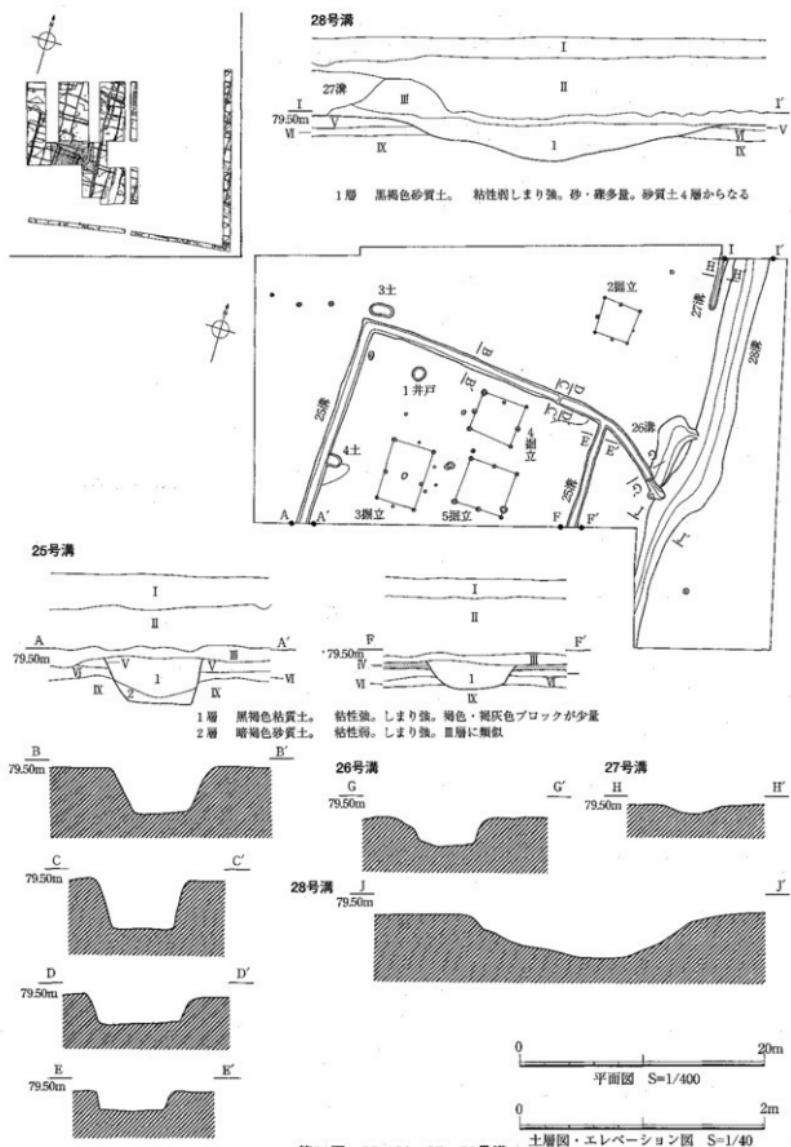
#### 第4節 遺構外出土遺物(遺物：第22・23図、表2・3、図版11)

土器はすべて小片で、繩文土器3点、土師器106点、須恵器11点、陶磁器7点。木製品の杭が2点である。石器・石製品は石錐1点、剥片2点、砥石1点。金属製品は昭和17年铸造の1銭硬貨1点、小鉄滓1点である。掲載した遺物は5・7・木2・木3・石2・石3である。

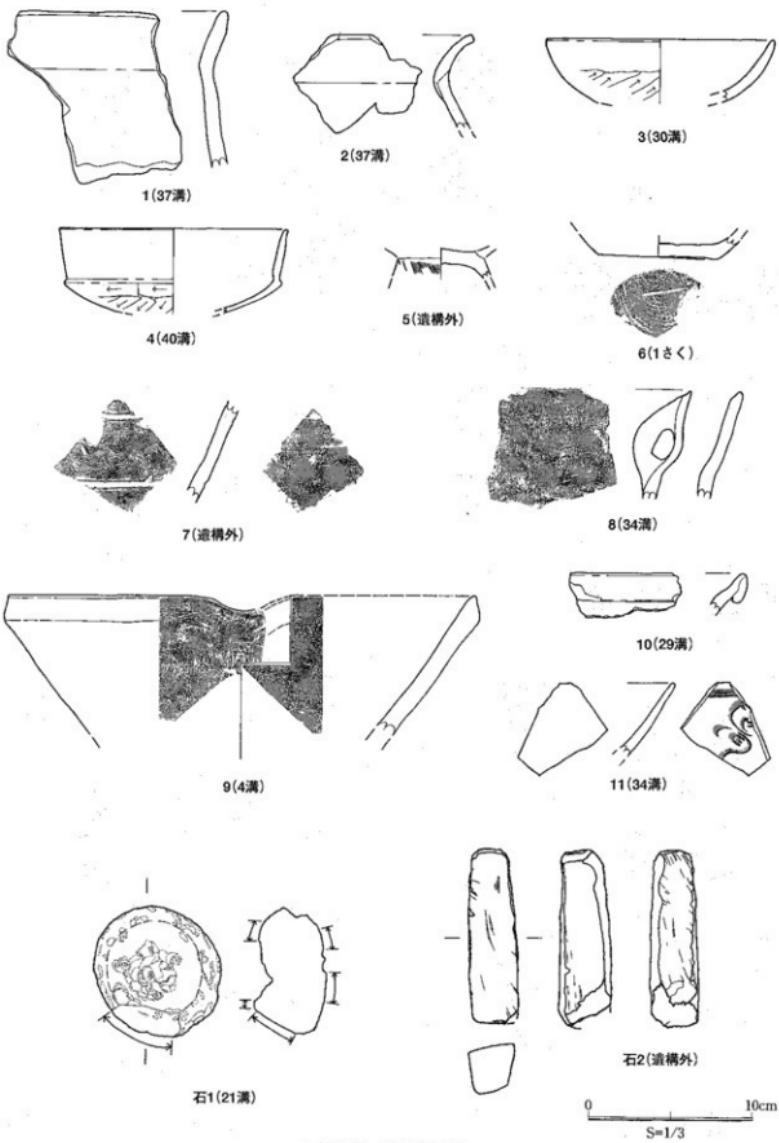


第19図 1・2・3・4・5・6・7号土坑

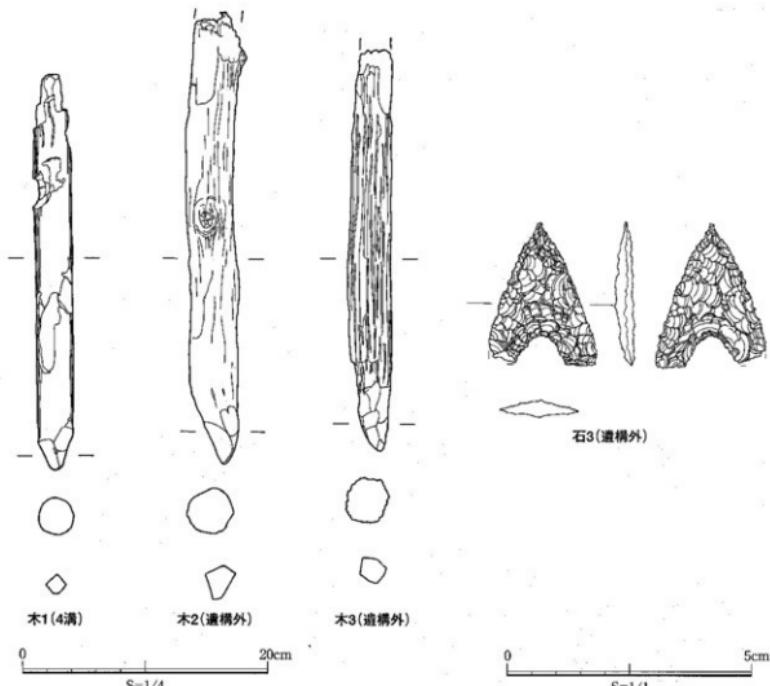




第21図 25・26・27・28号溝



第22図 出土遺物(1)



第23図 出土遺物(2)

表2 出土遺物(1)  
土器

番号	出土地点	器種	特徴	色調	胎土
1	37号溝	土師器甕	口縁部片。厚さ1.0cm。脇部の内外両面をハラナダした後、口唇部を指ナダす。	淡黄	白、英、礁
2	37号溝	土師器甕	口縁部～胴部片。厚さ0.7cm。口縁部の内外両面をナダす。胴部の内面はハケヶ外面はナデ。	黄灰	白、角
3	30号溝	土師器壺	口縁～底部片。厚さ0.6cm。外面は体部へラ前り後、口縁部を横位ナダす。	にぶい橙	白、角、英
4	40号溝	土師器壺	残存1/3。口唇部は短く外反。稜。口縁部は外ナデ、体部はハラケズリ	橙	白・角
5	遺構外	土師器台付壺	底部～肩部片、厚さ0.4cm。外面にはハケ	黄灰	白・角、英
6	1号さく 遺構外	須恵器壺	推定口径7.6cm、高さ0.7cm。系切り後無調整。	灰白	白
7		須恵器甕	口縁部片。口縁部は短く外反。稜。二重条縫が上下に周巡して区画され、灰色内と下側条縫下に波状文が入る	白・角	
8	34号溝	軟質陶器内耳壺	口縁部片。厚さ0.8cm。内外両面をナデす。	にぶい黄橙	白、角、英
9	4号溝	軟質陶器内耳鉢	口縁部片。厚さ1.7cm。脇部の内外両面をナデす。	黄灰	白、角、英、礁
10	29号溝	铁釉陶器鉢	口縁部片。厚さ0.5cm。口縁部を外に折り返す	にぶい赤褐	白、黒、英、礁
11	34号溝	青磁碗	口縁部片。厚さ0.6cm。内外両面に厚さ0.5mmの釉薬が塗られ、内面には割花文など。口縁部を垂線2条が周巡する	オリーブ黄	黒、長

白色粒：白、黑色粒：黒、石英：英、角閃石：角、長石：長

表3 出土遺物（2）  
木製品

番号	出土地点	器種	長さ・幅・厚さ	特徴
木1	4号溝	杭	32.3・3.0・3.0cm	芯持材の先端部を5方向から粗く削る
木2	遺構外	杭	(32.8)・3.6・3.6cm	芯持材の先端部を5方向から粗く削る
木3	遺構外	杭	(36.7)・3.8・3.7cm	芯持材の先端部を5方向から粗く削る

石器

番号	出土地点	器種	長さ・幅・厚さ・重さ	石材
石1	21号溝	石製品	8.0・7.8・4.4cm。85.9g	角閃石安山岩
石2	遺構外	砾石	10.6・3.0・3.0cm。143.9g	流紋岩
石3	遺構外	打製石器	2.9・2.2・0.3cm。1.47g	黒曜石

遺構一覧表

表4 溝（1）

番号	位 置	上幅 m	下幅 m	深さ m	方 位	備 考
—	—	—	—	—	—	—
3号溝	1区W12	0.50	0.37	0.35	N-87°-W	II層から掘り込む。埋没土はII層に類似する
4号溝	1区X15	1.56	0.63	0.70	N-82°-W	III層から掘り込む。軟質土器が出土
5号溝	1区Y18	0.70	0.28	0.38	N-87°-W	II層から掘り込む
6号溝	1区Y18	0.94	0.32	0.45	N-87°-W	V層から掘り込む。覆土はⅣ層に類似する
7号溝	1区V19	0.98	0.30	0.52	N-0°	V層から掘り込む
—	—	—	—	—	—	—
9号溝	1区K20	0.54	0.28	0.18	N-17°-E	IV層(As-B)から掘り込む
10号溝	1区K20	0.50	0.24	0.10	N-5°-W	IV層(As-B)から掘り込む
11号溝	1区K20	0.42	0.16	0.70	N-0°	IV層(As-B)から掘り込む
12号溝	1区I21	1.83	0.50	0.45	N-8°-E	IV層(As-B)から掘り込む。埋没土はⅢ層に類似
13号溝	1区H12	0.45	0.18	0.38	N-16°-E	III層から掘り込む。埋没土はII層に類似
14号溝	1区Q20	0.89	0.32	0.18	N-24°W	埋層(C混)から掘り込む。埋没土はⅧ層(FA)に類似
15号溝	1区I21	1.38	0.66	0.23	N-27°-W	IX層から掘り込む。埋没土はAs-C混入
16号溝	1区G21	0.53	0.21	0.28	N-46°-W	埋層(C混)から掘り込む。埋没土はⅧ層(FA)に類似
—	—	—	—	—	—	—
20号溝	2区北側東寄り	0.42	0.20	0.53	N-77°-W	II層から掘り込む。埋没土Ⅲ層類似。29号溝を切る
21号溝	2区西側北寄り	0.56	0.16	0.20	N-85°-W	III層から掘り込む。埋没土はII層に類似する。近世陶器が出土

表5 溝(2)

番号	位置	上幅m	下幅m	深さm	方位	備考
22号溝	2区西側 中央~南	0.58	0.38	0.10	N-0°	大蛙井と思われる61・62号竪坑の間に位置。V層から掘り込む。 埋没土はⅢ層(As-B)に類似する
23号溝	2区中央	0.58	0.28	0.09	N-90°	V層から掘り込む。埋没土はⅢ層に類似する
24号溝	2区中央	0.64	0.21	0.21	N-90°	V層から掘り込む。埋没土はⅢ層に類似する
25号溝	2区中央南	0.58	0.42	0.42	N-0°	平面形は方形区画と推定される。IV層(As-B)から掘り込む。埋 没土はⅢ層に類似する
26号溝	2区中央南	0.69	0.42	0.24	N-45°-W	25号溝に隣接するものと思われる
27号溝	2区 H12	0.57	0.17	0.08	N-2°-W	埋没はⅡ層に類似する。28号溝を切る
28号溝	2区中央南	1.31	0.37	0.37	N-0°	Ⅲ層から掘り込む。IV層類似。27号溝に切られる
29号溝	2区北側東寄り	1.30	0.24	0.13	N-77°-W	埋没土はⅡ層に類似。青磁などが出土
30号溝	2区東側北~南	0.55	0.21	0.13	N-5°-W	V層から掘り込む。Ⅲ層に埋没する。底部に薄くIV層(As-B)に類似した層が堆積。須恵器片出土
31号溝	2区東側南寄り	0.53	0.24	0.08	N-85°-W	V層から掘り込む。IV層(As-B)に埋没。
32号溝	2区東側中央~ 南	0.38	0.17	0.10	N-4°-W	V層から掘り込む。Ⅲ層に埋没。底部に薄くIV層(As-B)に類似した層が堆積する
—	—	—	—	—	—	—
34号溝	2区東側北~南	0.54	0.24	0.15	N-4°-E	V層から掘り込む。Ⅲ層に類似。中・近世陶器片出土
—	—	—	—	—	—	—
36号溝	2区西側南寄り	0.19	0.03	0.09	N-7°-E	V層(C泥)から掘り込む。埋没土はⅢ層(FA)類似
37号溝	2区東側北寄り	1.05	0.57	0.23	N-31°-W	V層(C泥)から掘り込む。埋没土はⅢ層(FA)類似。土師器塊出土
38号溝	2区東側南寄り	0.51	0.20	0.11	N-33°-W	V層(C泥)から掘り込む。埋没土はⅢ層(FA)類似
39号溝	2区東側南寄り	0.51	0.20	0.11	N-33°-W	V層(C泥)から掘り込む。埋没土はⅢ層(FA)類似
40号溝	2区東側南寄り	0.80	0.40	0.22	—	V層から掘り込む。Ⅲ層(FA)に類似。土師器塊出土

表6 さく状造構

番号	位置	造構の規模			長軸 方向	小溝(さく)の規模			小溝間 の幅	備考
		長軸m	短軸m	範囲m <sup>2</sup>		上幅m	下幅m	深さm		
1号さく	2区 D10	9.30	8.72	27.61	N-11°-W	0.12	0.06	0.04	0.20	南北・東西方向に走向する 小溝からなる面が1面ずつ あると推定。遺存不良
2号さく	2区 G12	4.20	3.57	12.88	N-66°-E	0.31	0.21	0.05	0.30	ほぼ東西を走向する小溝で 1面を構成。遺存不良
3号さく	2区 G13他	30.30	5.30 ~ 9.30	196.84	N-90°	0.30	0.11	0.02	0.15	南北に走向する小溝を連ね た7面以上で構成される。 遺存不良
4号さく	2区 K12	7.20	1.70 ~ 3.80	18.19	N-87°-E	0.22	0.13	0.04	0.15	南北に走向する小溝を連ね た2~3面で構成される。 遺存やや良

表7 堀立柱建物跡(1)

番号	位置	平面形状	規模 m		長軸方向	柱穴 m	
			長 軸	短 軸		長 徑	深 度
1号掘立	1区 W15	長方形	5.15	3.36	N-80°-W	0.24~0.31	0.25~0.31
2号掘立	2区 I13	ほぼ正方形	3.13	2.94	N-85°-W	0.23~0.33	0.14~0.43
3号掘立	2区 G14	長方形	5.03	3.36	N-0°	0.27~0.33	0.14~0.42
4号掘立	2区 H14	ほぼ正方形	3.69	3.48	N-84°-W	0.20~0.46	0.12~0.40
5号掘立	2区 H14	ほぼ正方形	4.11	3.75	N-86°-W	0.30~0.55	0.08~0.58

表8 堀立柱建物跡(2)-柱間距離

番号	長 軸 m			短 軸 m		
	P1・2・3/2.41-2.74	P6・7・8/2.50-2.55	P1・4・6/1.50-1.76	P3・5-8/1.85-1.59		
1号掘立	P1・2・3/1.67-1.46	P6・7・8/1.25-1.55	P1・4・6/1.72-1.16	P3・5-8/1.68-1.27		
3号掘立	P1・2・3/2.77-2.21	P4・5・6/2.77-2.26	P1・4/3.36	P3・6/3.15		
4号掘立	P1・2/3.65	P5・6/3.69	P1・3-5/1.93-1.55	P2・4・6/1.70-1.49		
5号掘立	P1・2-3/2.01-2.01	P4・5-6/2.09-2.02	P1・4/3.09	P3・6/3.75		

表9 井戸・土坑

番号	位置	平面形状	規模 m			長軸方向	備考
			長 径	短 径	深 度		
1号井戸	2区 G14	円形	1.14	1.05	1.42	N-0°	As-Bを切る。埋没土はⅡに類似
1号土坑	1区 V8	隅丸長方形	2.10	1.36	0.42	N-5°-E	As-B混入。埋没土はⅢに類似
2号土坑	1区 X16	円形	0.86	0.72	0.26	N-55°-W	As-B混入。埋没土はⅢに類似
3号土坑	2区 G13	長角円形	1.88	0.94	0.16	N-89°-W	As-Bを切る。埋没土はⅡに類似
4号土坑	2区 G14	長角円形	—	0.49	0.15	N-84°-W	As-Bを切る。埋没土はⅡに類似
5号土坑	2区 H8	長角円形	0.51	0.39	0.27	N-36°-E	As-B混入。埋没土はⅢに類似
6号土坑	2区 E14	長角円形	0.60	0.45	0.18	N-13°-E	As-B混入。埋没土はⅢに類似
7号土坑	2区 G12	円形	0.38	0.36	0.20	N-0°	As-B混入。埋没土はⅢに類似

表10 平安時代水田跡(1)-面積

番号	位置	面 積 m <sup>2</sup>
1	2区西側	20.78
2	2区西側	82.53
3	2区西側	115.50
4	2区西側	114.40
5	2区中央	159.30
6	2区中央	37.15

番号	位置	面 積 m <sup>2</sup>
7	2区中央	26.14
8	2区中央	130.50
9	2区東側	27.48
10	2区東側	68.95
11	2区東側	46.11
12	1区東側	30.57

表11 平安時代水田跡（2）一畦畔

遺構名	上幅 m	下幅 m	高さ m	走向方向	
1号畦畔	0.33	0.52	0.05	N-84°-W	
2号畦畔	—	0.37	0.04	N-86°-E	
3号畦畔	—	0.38	0.05	N-78°-E	
4号畦畔	—	0.57	0.06	N-90°	
5号畦畔	—	0.50	0.04	N-83°-E	
6号畦畔	0.26	0.48	0.06	N-0°	
7号畦畔	0.38	0.48	0.09	N-84°-W	
8号畦畔	—	0.60	0.06	N-6°-W	
9号畦畔	0.26	0.45	0.06	N-83°-W	
10号畦畔	—	0.48	0.07	N-80°-E	
11号畦畔	0.33	0.51	0.06	N-0°	
12号畦畔	0.38	0.52	0.07	N-87°-W	
13号畦畔	0.42	0.58	0.07	N-88°-W	
14号畦畔	0.50	0.68	0.06	N-85°-W	
15号畦畔	—	0.41	0.05	N-0°	
16号畦畔	0.32	0.52	0.06	N-84°-W	
17号畦畔	—	0.50	0.03	N-0°	
18号畦畔	—	0.58	0.02	N-86°-W	
19号畦畔	0.23	0.38	0.05	N-0°	
20号畦畔	—	0.47	0.04	N-87°-W	
21号畦畔	—	0.35	0.03	N-73°-W	
22号畦畔	0.38	0.47	0.06	N-88°-W	
23号畦畔	0.27	0.51	0.06	N-84°-W	
24号畦畔	0.18	0.39	0.09	N-13°-E	
25号畦畔	0.40	0.60	0.08	N-2°-E	
26号畦畔	0.31	0.50	0.04	N-8°-W	
27号畦畔	0.44	0.61	0.05	N-83°-E	
28号畦畔	0.48	—	0.05	N-8°-W	
29号畦畔	0.26	0.46	0.05	N-90°	
30号畦畔	0.26	0.44	0.07	N-0°	
31号畦畔	0.23	0.50	0.05	N-3°-E	
32号畦畔	0.26	0.43	0.03	N-86°-E	
33号畦畔	0.34	0.54	0.02	N-2°-E	
34号畦畔	0.57	—	0.03	N-4°-W	
35号畦畔	0.64	—	0.03	N-4°-E	
36号畦畔	—	0.58	0.03	N-62°-W	
37号畦畔	0.14	0.29	0.04	N-8°-W	
38号畦畔	0.35	0.57	0.03	N-0°	
39号畦畔	0.31	0.53	0.03	N-78°-W	
40号畦畔	0.34	0.52	0.08	N-90°	
41号畦畔	0.23	0.43	0.03	N-88°-W	
42号畦畔	0.22	0.48	0.07	N-90°	
43号畦畔	0.40	0.52	0.02	N-90°	
44号畦畔	0.28	0.47	0.04	N-88°-E	
45号畦畔	0.43	0.58	0.05	N-84°-W	
46号畦畔	0.30	0.47	0.06	N-88°-E	
47号畦畔	0.26	0.49	0.04	N-87°-E	
48号畦畔	0.21	0.45	0.08	N-88°-W	
49号畦畔	0.54	0.66	0.06	N-0°	
50号畦畔	0.34	—	0.54	0.01	N-86°-E
51号畦畔	—	—	0.42	0.08	N-9°-W
52号畦畔	0.45	—	0.32	0.07	N-76°-E
53号畦畔	0.52	—	0.52	0.08	N-80°-W
54号畦畔	0.62	—	0.62	0.05	N-85°-W
55号畦畔	0.44	—	0.44	0.07	N-5°-W
56号畦畔	0.33	—	0.33	0.02	N-83°-E
57号畦畔	0.33	—	0.33	0.07	N-83°-E
58号畦畔	0.43	—	0.43	0.02	N-90°
59号畦畔	0.34	—	0.34	0.04	N-86°-E
60号畦畔	0.36	—	0.36	0.02	N-90°
61号畦畔	0.31	—	0.47	0.05	N-8°-E
62号畦畔	0.51	—	0.58	0.03	N-0°
63号畦畔	0.76	—	0.94	0.04	N-0°
64号畦畔	0.32	—	0.52	0.03	N-90°
65号畦畔	0.45	—	0.62	0.05	N-85°-W
66号畦畔	0.23	—	0.36	0.04	N-0°
67号畦畔	0.38	—	0.57	0.02	N-3°-E
68号畦畔	0.29	—	0.45	0.02	N-86°-E
69号畦畔	0.46	—	0.63	0.04	N-68°-W
70号畦畔	0.26	—	0.63	0.06	N-0°
71号畦畔	0.25	—	0.43	0.05	N-7°-E
72号畦畔	0.36	—	0.52	0.02	N-72°-E
73号畦畔	—	—	0.50	0.05	N-6°-W
74号畦畔	0.36	—	0.55	0.02	N-12°-W
75号畦畔	0.42	—	0.58	0.03	N-82°-E
76号畦畔	0.29	—	0.46	0.05	N-78°-E
77号畦畔	0.42	—	0.57	0.05	N-81°-W
78号畦畔	0.39	—	0.54	0.02	N-82°-E
79号畦畔	0.36	—	0.49	0.03	N-12°-W
80号畦畔	0.54	—	0.75	0.03	N-85°-W
81号畦畔	0.32	—	0.56	0.08	N-83°-E
82号畦畔	—	—	0.63	0.02	N-85°-W
83号畦畔	—	—	0.52	0.03	N-85°-W
84号畦畔	0.22	—	0.41	0.05	N-0°
85号畦畔	0.52	—	0.72	0.01	N-0°
86号畦畔	0.27	—	0.48	0.08	N-0°
87号畦畔	0.31	—	0.48	0.03	N-7°-E
88号畦畔	0.26	—	0.42	0.03	N-0°
89号畦畔	0.29	—	0.45	0.05	N-3°-E
90号畦畔	—	—	0.54	0.02	N-83°-E
91号畦畔	0.28	—	0.48	0.04	N-85°-W
92号畦畔	0.44	—	0.62	0.05	N-85°-E
93号畦畔	0.33	—	0.48	0.02	N-88°-E
94号畦畔	0.35	—	0.57	0.05	N-88°-E
95号畦畔	0.26	—	0.46	0.05	N-89°-W
96号畦畔	0.30	—	0.51	0.04	N-89°-W
97号畦畔	0.28	—	0.46	0.04	N-2°-W

## 第5章　まとめ

亀里鉄面遺跡から検出された遺構は古墳時代から近世に至り、水田跡、さく状遺構4基、掘立柱建物跡5棟、井戸1基、土坑7基、溝32条で、出土遺物は縄文土器・石器・剥片、古墳～平安時代の土師器片・須恵器片、中・近世の陶磁器片・砥石などがある。

また亀里鉄面遺跡の道路を挟んだ北側に位置する亀里鉄面II遺跡から検出された遺構は、奈良時代から近世に至る水田跡、さく状遺構1基、土坑4基、溝11条で、出土遺物は縄文時代石器・剥片、古墳～平安時代の土師器片である。2遺跡から検出された水田跡は、いずれも平安時代後期に構築され、As-Bテフラに埋没した遺構である。主な大畦畔は以下の通りである。(第24図)

南北に走向するのは、亀里鉄面遺跡2区の西側を一对になって走向する62・63号畦畔、亀里鉄面II遺跡の北東側を一对になって走向する3・4号畦畔である。東西に走向するのは亀里鉄面II遺跡の北側中央にある16号畦畔とそれが17・18号畦畔に分岐した一群である。

これら3条の畦畔の線を国家公共座標第IX系の方眼網に被せて1町に相当する110m枠で囲むと、まず北から第1の東西線  $X=37,205$ 、第2の東西線  $X=37,095$ 、第3の東西線  $X=36,985$ が、次に西から第1の南北線  $Y=-66,765$ 、第2の南北線  $Y=-66,655$ が浮かび上がってきた。

また、南北に走向する小畦畔も認められ、特に亀里鉄面遺跡の2区にある66・67・70・79号畦畔が顕著であった。これらの畦畔間距離の平均は11m前後となる。

以上のことから、平安後期水田は2遺跡にまたがる10町の条里区画にまで拡大され、坪区画は110×11mを東西に10面連ねた長地型であったことが判明した。

周辺の横手湯田遺跡、横手湯田II遺跡、横手湯田III遺跡、横手湯田V遺跡、亀里平塚遺跡、横手宮田遺跡、横手早稻田遺跡、横手南川端遺跡でも水田跡が調査されている。(第25図)

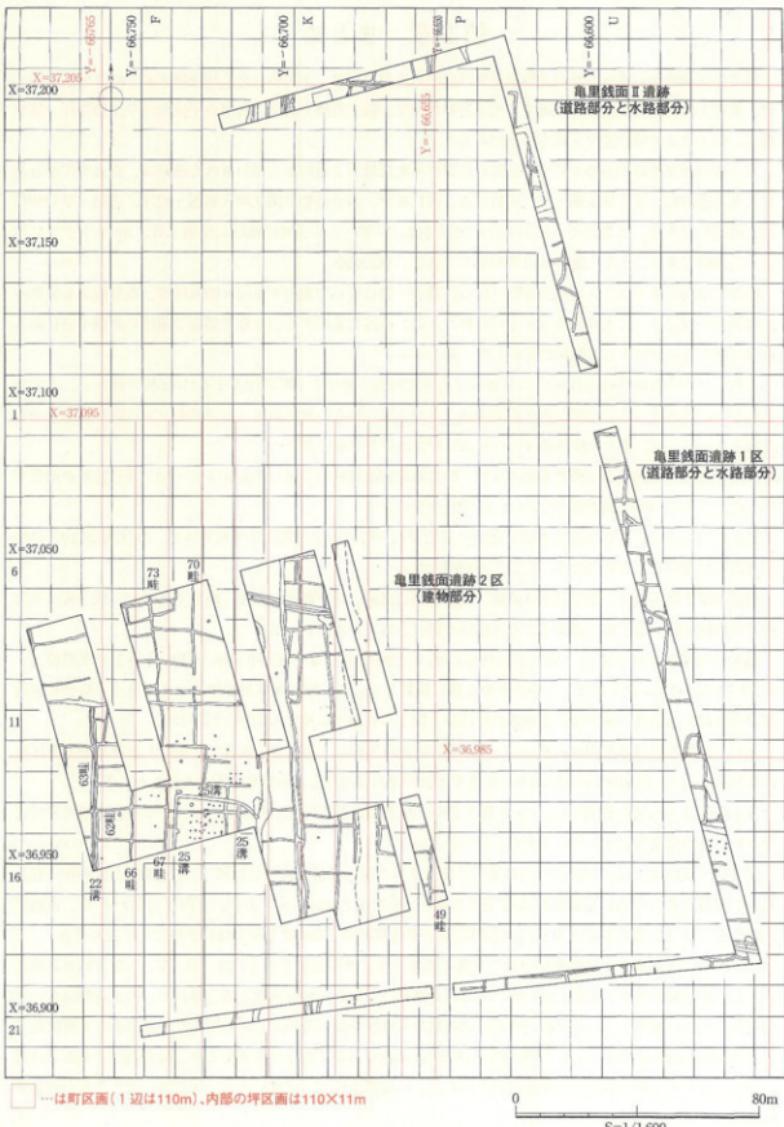
亀里平塚遺跡4区F地点で検出された幅1.8mの大畦畔は、亀里鉄面II遺跡を横切る第1の東西線  $X=37,205$ を西へ200m引き延ばした線のやや北側に位置している。坪区画は長地型のようである。横手宮田遺跡の北端部と南端部、横手湯田II遺跡の坪区画も同じく長地型に属する形態と思われる。

これとは異なり横手早稻田遺跡は55×22mの坪区画を東西に5面連ね、南北で2段にした折衷型の坪区画の特徴に類似し、同遺跡の南北100mに位置する横手南川端遺跡もこの形態に属すると思われる。

以上の所見から図の範囲では、As-B降下当時、亀里鉄面遺跡付近は長地型の水田が現利根川の川岸付近では折衷型の水田が営まれていたものと思われる。

25号溝(第24図)は方形区画の北側部分と推定され1区中央部南寄りに位置し、As-B層上面からの掘り込みが確認されている。断面形状は逆台形であり、規模は上幅0.58mである。走向は南北がN $0^{\circ}$ 、東西がN $83^{\circ}-W$ である。また西辺と東辺の南北軸には平安後期水田67号畦畔と86号畦畔が併行して走向する。

以上のような状況から25号溝は中世の遺構と判断され、平面形状では  $X=36,985$ 、 $Y=-66,765$ を北西基点とした町区画の西から数えた第3坪、第4坪を地続きにした土地區画溝と推定された。出土遺物はないが、区画溝の内外に配置された柱穴群の存在は居住城の可能性を高いものとしている。だが25号溝により区画された東西幅が約20mであること、溝の深さが0.50m未溝であることなどを考慮すると、防御施設であるとは言い難く、むしろ土地境界溝か排水施設と考えられ、小規模な城館(墨敷)あるいは寺社などの存在が想像されよう。



第24図 条里区画推定図(1)



第25図 条里区画推定図(2)

龜里錢面遺跡

圖版1

遺構周辺



龜里錢面遺跡周辺1 (国土地理院撮影2000年)



龜里錢面遺跡周辺2 (米軍空撮1947年)

龜里錢面遺跡

図版2

遺構（1区全景）



1区遠望（南から）



1区全景（東から）

龜里錢面遺跡

図版3

遺構（2区全景）



2区遠望（南から）

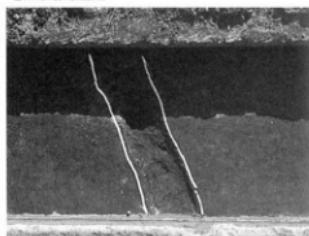


2区古墳・平安時代面全景

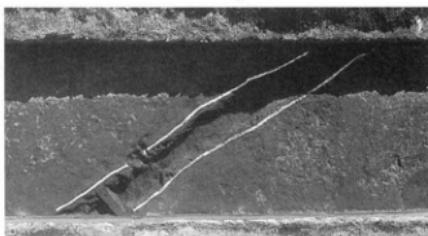
龟里鐵面遺跡

図版4

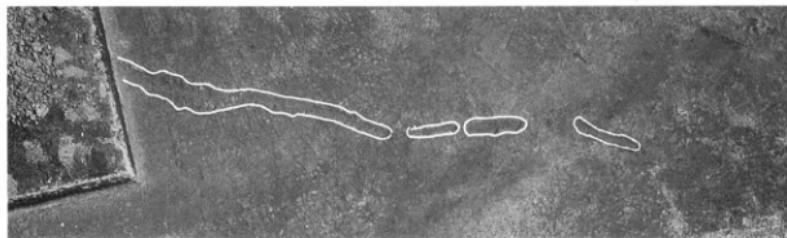
遺構（溝）



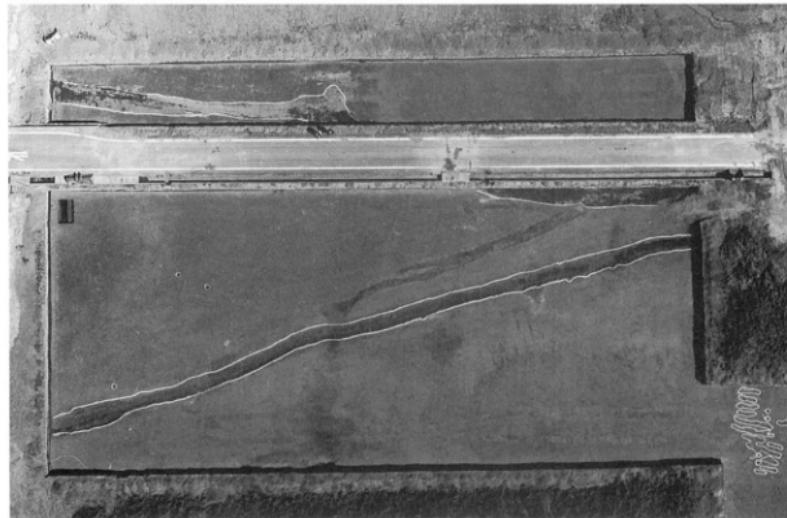
14号溝



16号溝



36号溝



37号溝

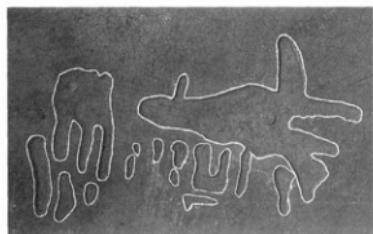
龜里錢面遺跡

図版 5

遺構（溝・さく状遺構）



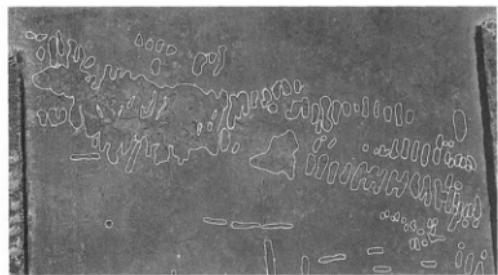
38・39・40号溝



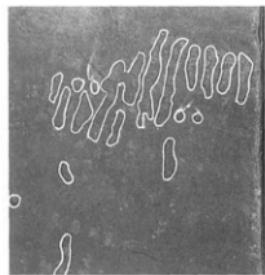
1号さく状遺構



2号さく状遺構



3号さく状遺構

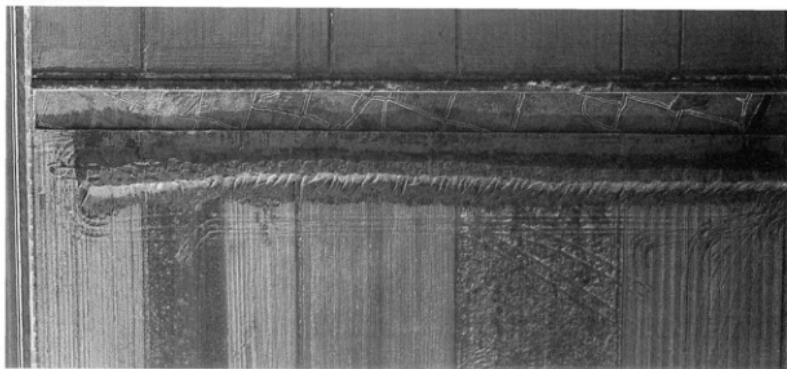


4号さく状遺構

龜里錢面遺跡

図版 6

遺構（水田跡）



1区平安時代水田跡（1）東側



1区平安時代水田跡（2）南側



1区平安時代水田跡（3）南側



2区平安時代水田跡全景



2区平安時代水田跡南東側（南から）



水口（北から）



足跡（1）（南から）

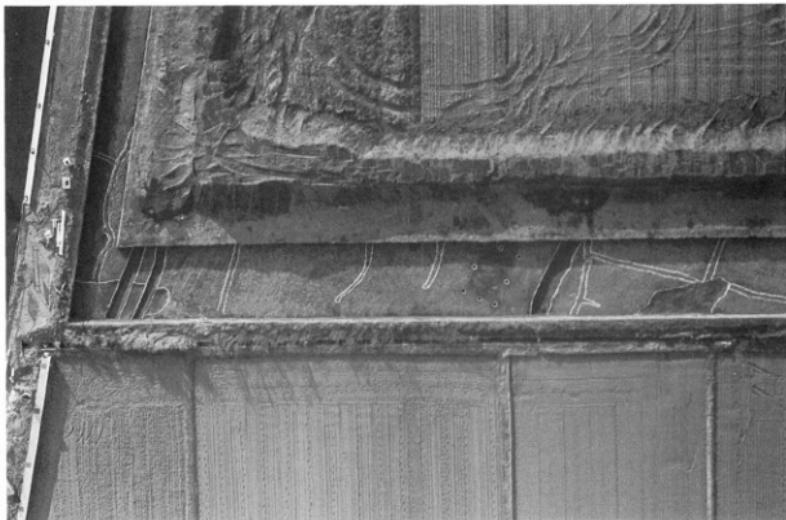


足跡（2）（西から）

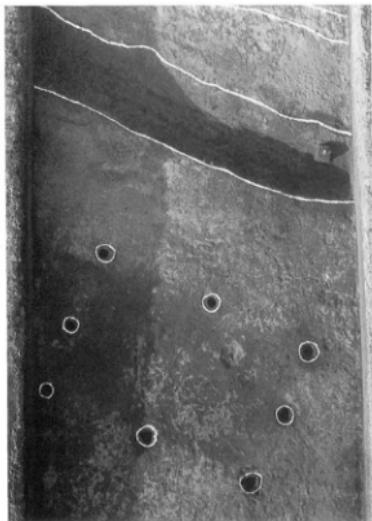
龟里钱面遺跡

圖版 8

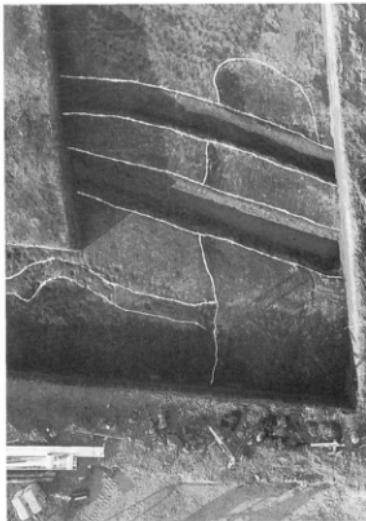
遺構（溝・掘立柱建物跡）



1号掘立柱建物跡・4・5・6号溝



1号掘立柱建物跡・4号溝



5・6号溝

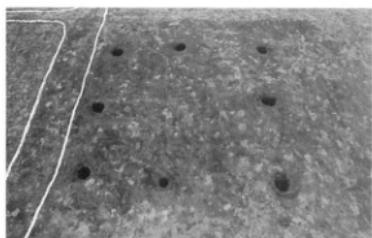
龜里錢面遺跡

図版 9

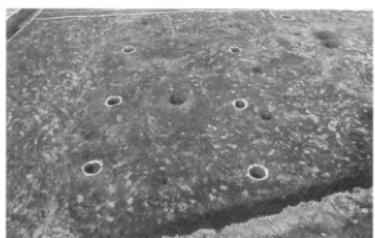
遺構（溝・掘立柱建物跡）



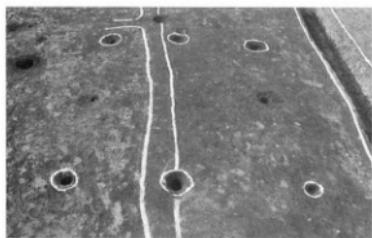
25号溝



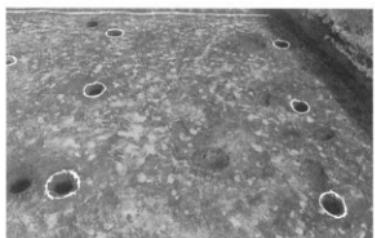
2号掘立柱建物跡（東から）



3号掘立柱建物跡（南から）



4号掘立柱建物跡（東から）

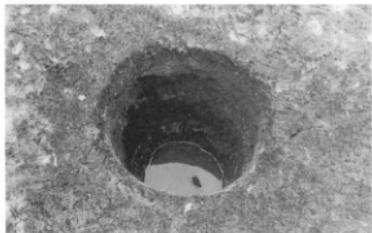


5号掘立柱建物跡（東から）

龜里錢面遺跡

図版  
10

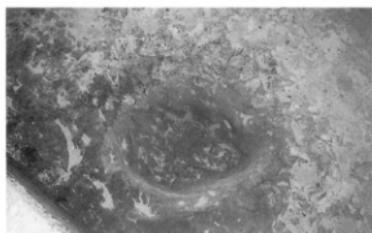
遺構  
(井戸・土坑)



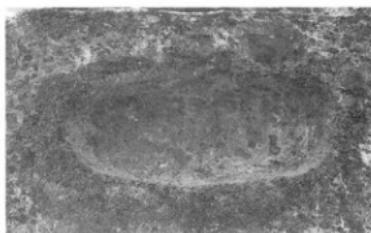
1号井戸（北から）



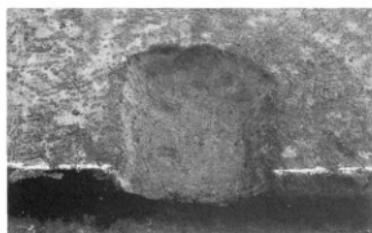
1号土坑（北西から）



2号土坑（南から）



3号土坑（北から）



4号土坑（西から）



5号土坑（北から）



6号土坑（北から）



7号土坑（北から）

龜里錢面遺跡

圖版  
11

出土遺物



1 (37溝)



2 (37溝)



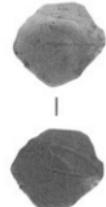
3 (30溝)



4 (40溝)



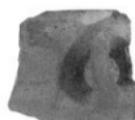
5 (造構外)



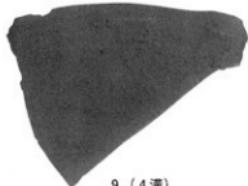
6 (1さく)



7 (造構外)



8 (34溝)



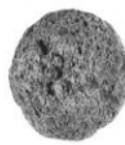
9 (4溝)



10 (29溝)



11 (34溝)



石1 (21溝)



木1 (4溝)



木2 (造構外)



木3 (造構外)



石2 (造構外)



石3 (造構外)

出土遺物

## 抄 錄

フリガナ	カミサトゼニメンイセキ
書名	亀里錢面遺跡
編著者名	大越直樹・眞塩明男
編集機関	山武考古学研究所／〒286-0045 千葉県成田市並木町221 TEL 0476-24-0536(代)
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団／〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664-4
発行年月日	西暦2001年3月23日

収蔵遺跡名	所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市長村	遺跡番号					
カミサトゼニメン 亀里錢面遺跡	群馬県前橋市亀里 町884番地外	10201	12G48	36°19' 53"	139°05' 23"	20001121 ～ 20010316	10,525m <sup>2</sup>	群馬県産業 技術センター造成

所蔵遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
亀里錢面遺跡	水田跡他 中世溝	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中・近世	さく状遺構4基、 水田跡 堀立柱建物跡5棟 井戸1基、土坑7 基、溝32条	縄文土器片、石鎌 剥片、土師器 須恵器、軟質土器 陶磁器、石製品、 杭他	角里方形区画の遺 存するAs-B下 水田跡 中世城館の可能性 のある溝2地点

遺物の取り扱いについて

項目	内 容						
水洗い	・全点実施						
注記	・遺跡略称(12G48)、出土遺物(W:溝)						
実測	・全点実施						
台帳	・遺物実測は報告書掲載分についてのみ実施した ・遺物台帳・図面台帳・写真台帳を作成し、後日、資料検討が可能であるよう に構成した						
保管方法	<table border="1"> <tr> <td>出土遺物</td><td>・出土遺物は、報告書掲載と未掲載に分け、コンテナに収納した</td></tr> <tr> <td>図面</td><td>・遺構実測図と遺物実測図に分けアルタートケースに収納した</td></tr> <tr> <td>写真</td><td>・遺構写真は、モノクロ35mm、カラーリバーサル35mm、カラーネガ35mm、 モノクロ6×6cm(空撮写真)の4種類がある ・遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7cmフィルムを使用 して、撮影を行った</td></tr> </table>	出土遺物	・出土遺物は、報告書掲載と未掲載に分け、コンテナに収納した	図面	・遺構実測図と遺物実測図に分けアルタートケースに収納した	写真	・遺構写真は、モノクロ35mm、カラーリバーサル35mm、カラーネガ35mm、 モノクロ6×6cm(空撮写真)の4種類がある ・遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7cmフィルムを使用 して、撮影を行った
出土遺物	・出土遺物は、報告書掲載と未掲載に分け、コンテナに収納した						
図面	・遺構実測図と遺物実測図に分けアルタートケースに収納した						
写真	・遺構写真は、モノクロ35mm、カラーリバーサル35mm、カラーネガ35mm、 モノクロ6×6cm(空撮写真)の4種類がある ・遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7cmフィルムを使用 して、撮影を行った						

亀里銭面遺跡

印刷 平成13年3月16日

発行 平成13年3月23日

編集 山武考古学研究所 TEL0476-24-0536  
 発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
 印刷 (株)文化総合企画 TEL0476-93-0593